

日野市
新たな学校づくり・社会教育施設づくり
検討委員会（第6回）資料

日野市教育委員会
令和6年7月12日（金）

1) 学校整備の方向性

①小学校整備の方向性（特別支援学級/特別支援教室）

これまで諸室の検討（振り返り）

●普通教室

通常学級 第3回

- ・多様な学習活動、教室の拡張
- ・オープンスペースの設置
- ・収納容量の確保 など

第3回 第6回

特別支援教室（ステップ教室）

- ・児童生徒の特性を踏まえた小集団と個別指導による空間構成 など

第3回 第6回

特別支援学級（知的）

- ・学習活動や生活環境一人ひとりにフィットした空間構成 など

特別支援学級（自閉・情緒）

- ・児童生徒の特性に合わせてカスタマイズしやすい空間構成 など

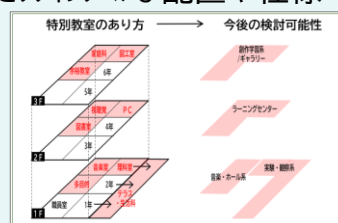
●管理諸室 第5回

- ・職員室、保健室、施設構成、会議室 など

●特別教室 第4回

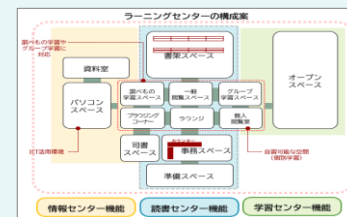
理科室・図工室など

- ・学びの多様性や複合的な学びを受け止める学習環境
- ・特別教室間の兼用など、学習環境や時代のニーズに合わせたルギブルな配置や仕様 など



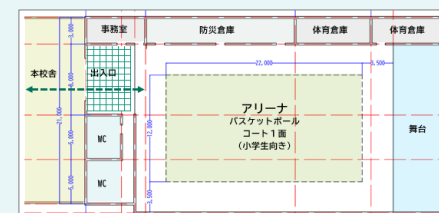
図書室（ラーニングセンター）

- ・コンピューター教室や視聴覚室とともに一体的な整備
- ・学校における学びの中核的機能 など



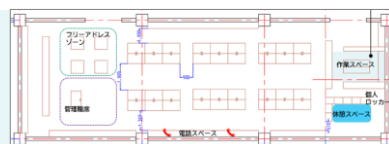
●体育館 第5回

- ・第3回/第4回では、関連議事として「避難所としての学校について」をあわせて意見交換



※特別教室 第2回

- ・地域開放のあり方



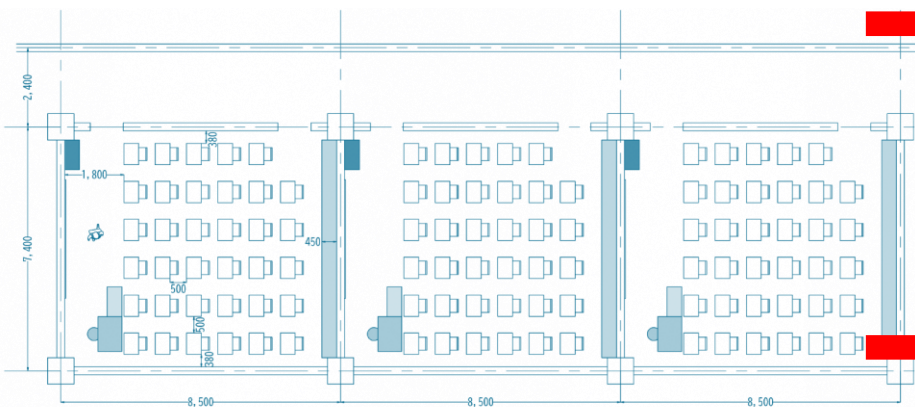
通常学級の空間のあり方：空間構成

- 新しく学校を整備する場合は、下右図のように教室を広くするとともに、廊下を広げる。
- それによって、教室内はもとより、廊下をオープンスペースとしても利用できるようになり、様々な学習形態が可能な空間とする。（教室と廊下兼オープンスペースは可動間仕切りで仕切ることで教室を独立して利用できるようにする。）

【現在の通常学級の空間構成】

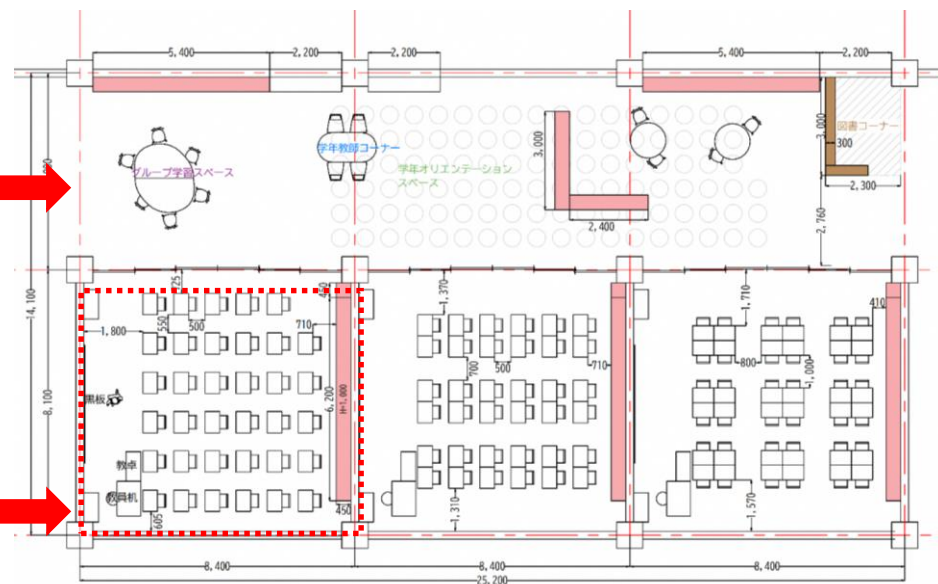
教室：7.5m×8.5m（約63㎡） 廊下：幅2.7m

廊下の幅を6mに広げることで、教室に隣接したオープンスペースとして利用できるようにする。



【将来の通常学級の空間構成】

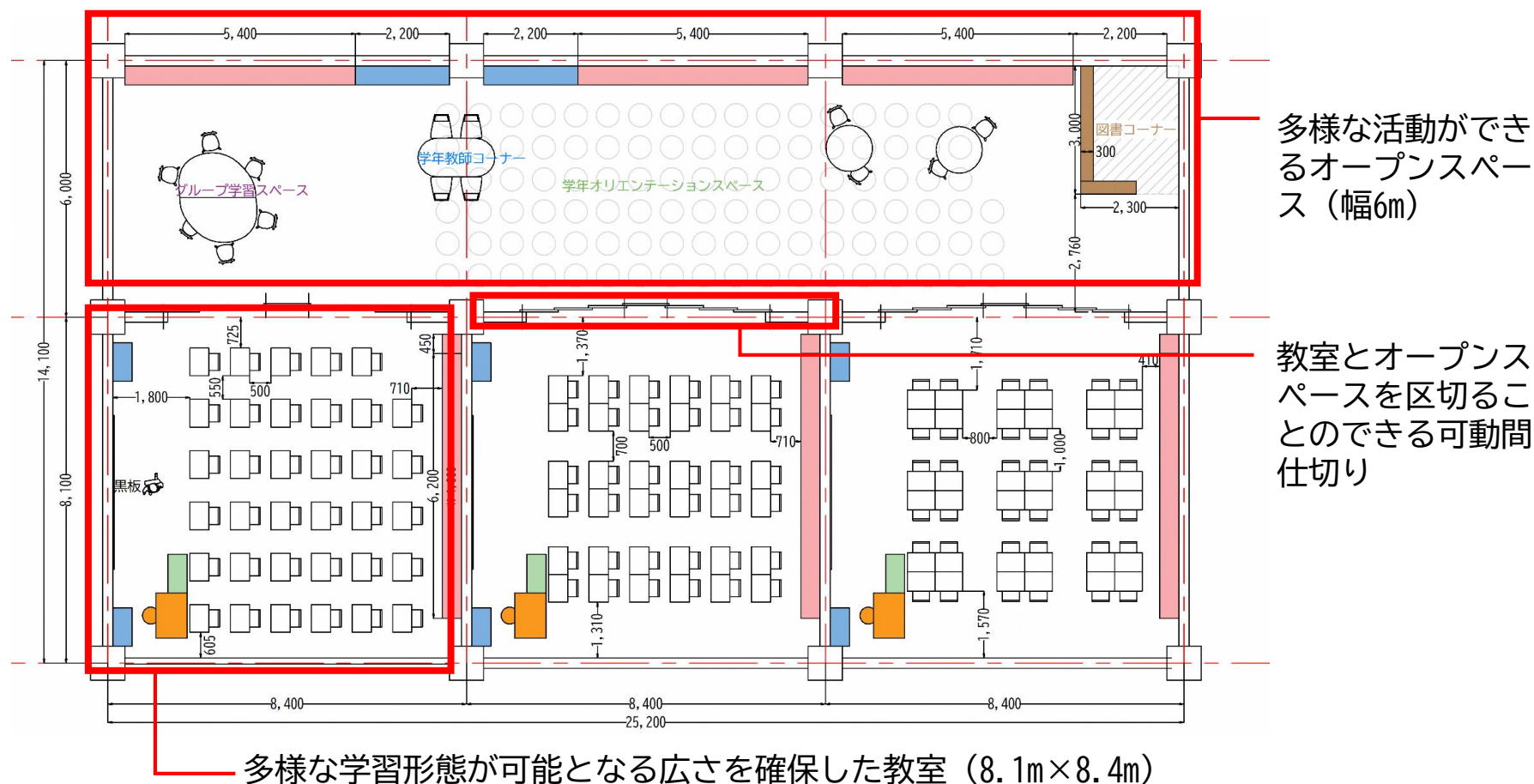
教室：8.1m×8.4m（約68㎡） 廊下：幅6.0m



教室の奥行はほぼ変更せず、幅を広げることで机と机の間にゆとりを持たせ、机の配列を変更しやすくする。

通常学級の空間のあり方：空間構成

- 幅を広くした教室では、一斉授業はもとより、4人1組でのグループワークも可能とする。
- 廊下兼オープンスペースには、可動の机・イスや収納等があり、学びにあわせて自由に環境をつくることを可能とする。

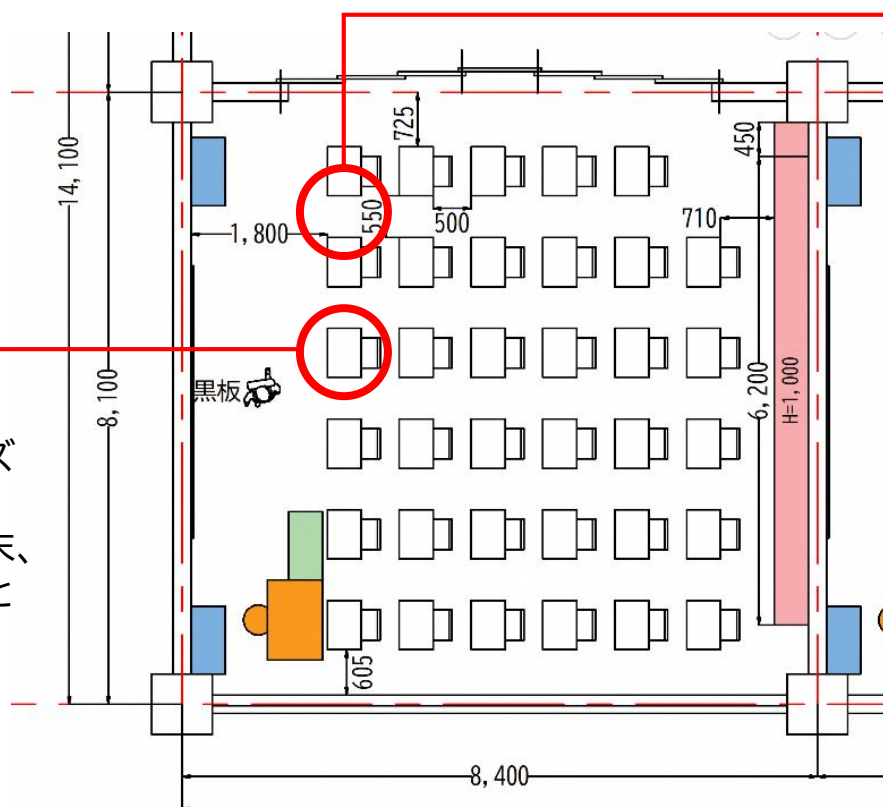


通常学級の空間のあり方：教室

（第3回検討委員会にて議論）

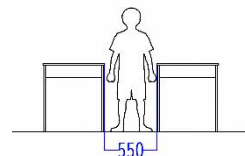
- 授業時に机上で用いる教科書、ノート、タブレット端末が無理なく置くことのできる机（幅65cm×奥行45cm）を基準とする。
- 机と机の間は55cm確保する。児童が通行するには十分な広さであり、教員1人が通ることも可能とする。仮に車いすを使用する児童がいた場合も教室の幅に余裕があり、間仕切りを開放すれば必要な幅（80cm）を確保することも可能とする。

幅65cm×奥行45cmの机
下記のとおり、A4サイズの教科書、B5サイズのノート、タブレット端末、筆箱を無理なく置くことができる。

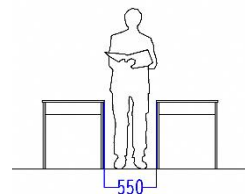


机と机の間は55cm確保できる。

【身長130cm（小学3～4年生程度）】

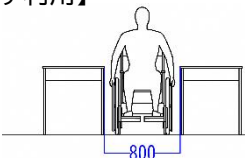


【身長170cm・大人】



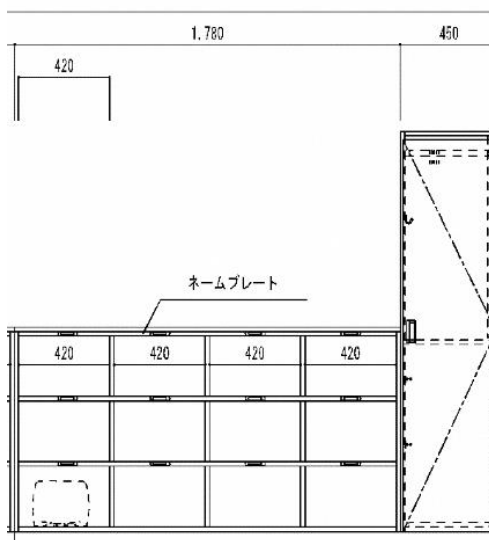
※車いす利用者の通路は最低80cmの幅が必要

【車いす利用】



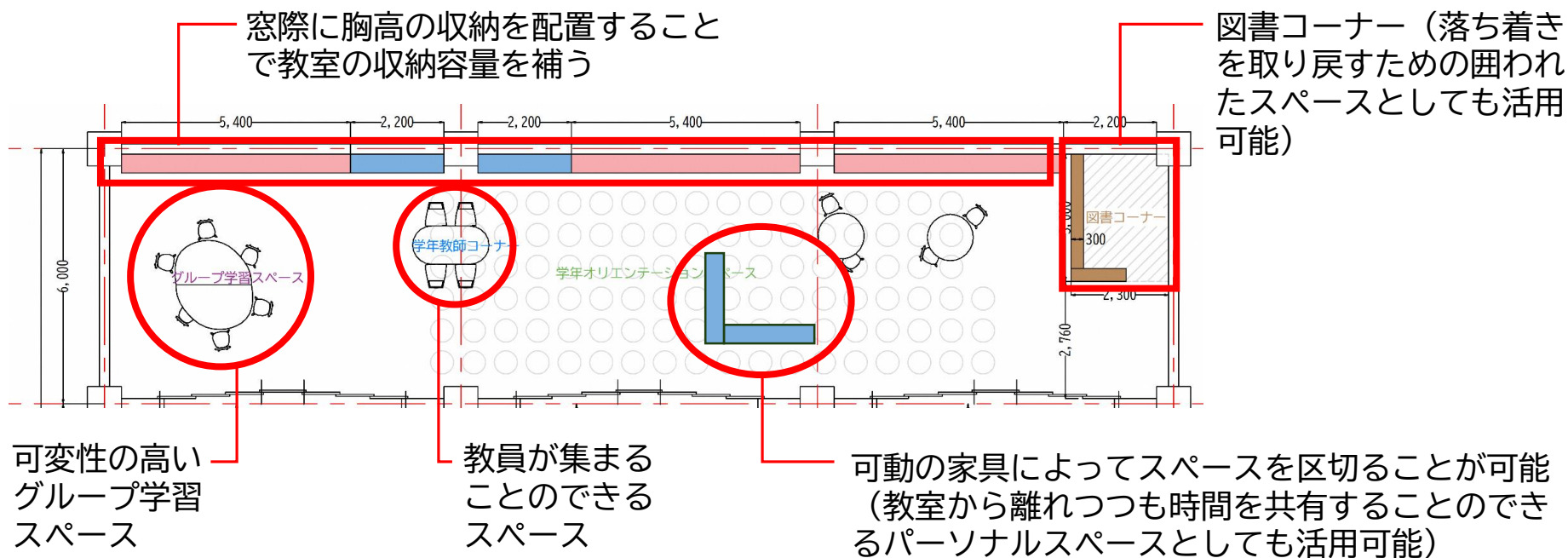
- 収納はランドセルが収納できる奥行（45cm）を確保し、教室の背面に配置する。（これだけでは収納が不足すると想定されるが、教室側面に収納を配置すると机の間が狭まるため、オープンスペースにも収納を配置する。）

- ・下図は豊田小学校新校舎の教室背面にある収納の図面である。その他教室側面の収納を含め、同校へのヒアリングの結果、収納は充足していることが分かった。
- ・今後整備する学校の教室にも同様の寸法（収納スペース：幅42cm×高さ30cm×奥行45cm）の収納を配置する。
- ・教室背面だけでは必要な収納量を満たさないが、教室側面に収納を配置すると机の間を狭めるため、オープンスペースにも展開する。



通常学級の空間のあり方：オープンスペース

- 教室に面する廊下はオープンスペースと捉え、廊下の幅を約6m（従来は約2.5m）まで広げ、学年全員が集まって行う活動を含む様々な学習活動が展開できる広さとする。
- 教室背面に収まらない持ち物を収納するためにオープンスペースの窓際にも収納を配置するとともに、可動式の収納を用意することで、学びの形態に合わせた学習環境を都度つくることができるようにする。



■配慮が必要な児童の居場所の確保

- ・ヒアリング等を踏まえると、配慮が必要な児童の居場所に求められる特徴は右のとおりまとめられる。
- ・児童によってニーズが異なるため、オープンスペースに可動式の収納があれば、ニーズに応じてつくることができる。

- ・自分のための場所、心のよりどころとなる場所
- ・何かあったときの待機スペース
- ・リラックスできる、教室とはちがう場所
- ・遅刻して教室に入れないとき、一旦落ち着く場所

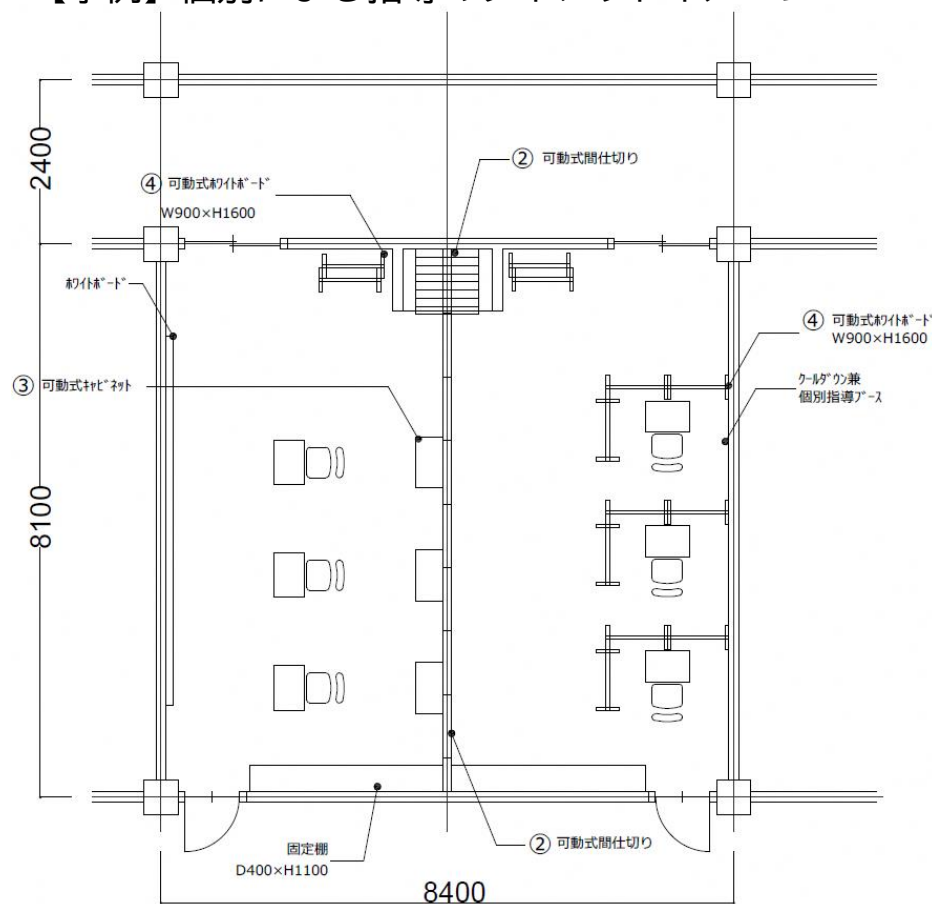
特別支援教室（ステップ教室）の空間のあり方

- ステップ教室は、知的障害がなく、自閉症、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害がある児童・生徒に対して、一時的な個別・小集団による指導を行う教室。
- 校舎内で落ち着いた環境に配置すること配慮の1つであるが、児童生徒の一人ひとりの特性に応じた多様な指導が行き届く配置とする。

【諸室機能について】

- ・ 原則、同教室は、一時的な個別・小集団による指導
- ・ 粗大運動など身体活動は、既存のプレイルーム又は特別支援教室内の小集団活動スペースや教員が個に応じた適所を判断

【事例】個別による指導のレイアウトイメージ

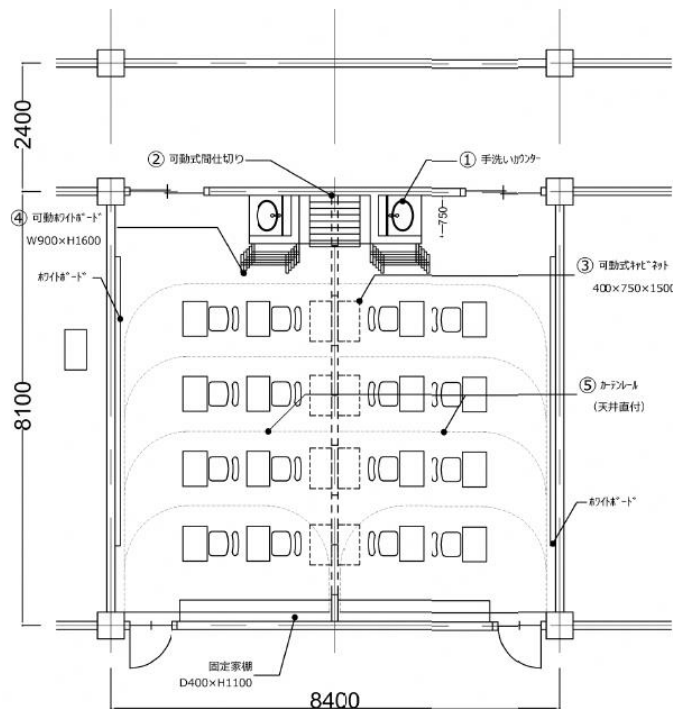


特別支援学級の空間のあり方

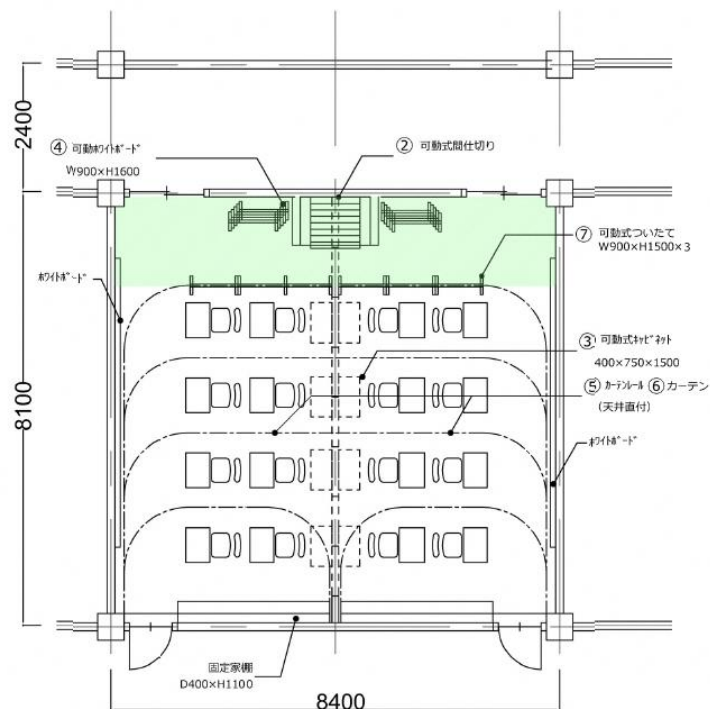
- 特別支援学級については、原則、通常学級の児童生徒との交流動線があることに留意して配置する。
- ただし、安全管理上、教室に近接した場所に非常口などが無い、自閉症・情緒については、通常学級での教育活動や今後の社会活動への適応指導なども想定した配置や動線とする。
- 特に動線については、完全分離ありきではなく、個の状況により配慮する（別ルートによる昇降口へのアプローチなど）こととする。

【諸室機能について】

- ・ 定員8名席配置、0.5教室分とする。（教育活動上、フレキシブルな学級編成が求められるため）



知的固定学級



自閉症・情緒固定学級

カームダウンスペース

【出典：日野市行政視察撮影写真】

- カームダウンスペースについては、どの学級に在籍する児童生徒にとって不可欠なスペース。
- 市内小中学校におけるアンケートなどでは、一人ひとりの個性によりカームダウンできる空間は異なることから、正解としてこの様な形態と確定することはできないとのご意見があった。（行政視察先も同様）
- 令和4年3月の「これからの特別支援教育を支える学校施設の在り方について（文部科学省）」では、「落ち着きを取り戻すための（カームダウン、クールダウンのためのスペース等）を設置するなど、パニックや多動性等に十分配慮した計画とすること」と明記されている。
- 当市におけるカームダウンスペースはオープンスペースや廊下を中心として確保しつつ、収納家具類の高さ配置など可動式の観点も踏まえ、いつの時代においてもフレキシブルな可変的空間を検討する。



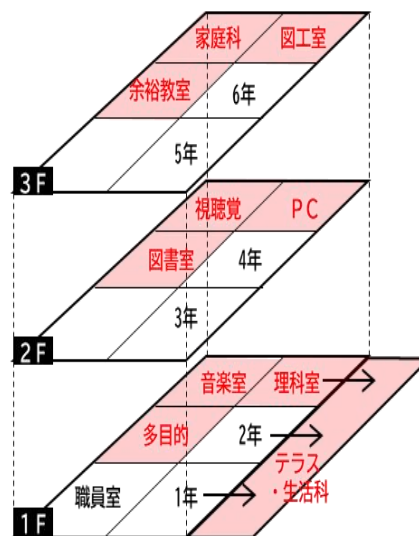
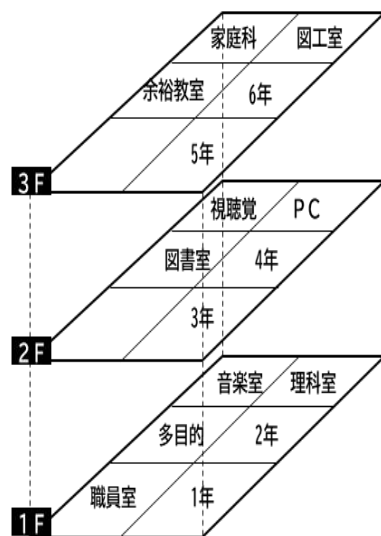
特別教室の設置・整備に関する考え方（新たな地域開放と併行して検討予定）

- 「学校施設整備指針」では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」「インクルーシブな学びや新しい時代の特別支援教育を支える学校施設」という観点で更新されている。
- 本指針や現場の意見を踏まえて、特別教室については、フレキシブルで子供が学びやすい環境を目指す。
 - ① 学びの多様性や複合的な学びを受け止める学習環境
 - ② 特別教室間の兼用など、学習環境や時代のニーズに合わせたフレキシブルな配置や仕様

■小学校における主な特別教室

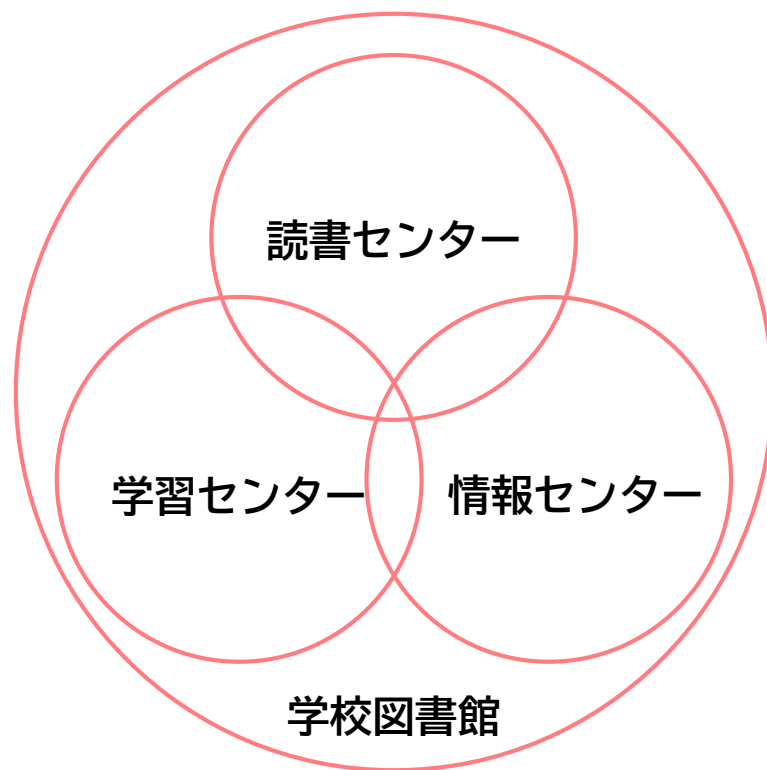
- 理科教室
- 生活科のための施設
- 音楽教室
- 図画工作教室
- 家庭教室
- 外国語活動室
- 視聴覚教室
- コンピュータ教室
- 図書室
- 屋内運動場
- 屋内プール

現行のレイアウト → 特別教室のあり方 → 今後の検討可能性



ラーニングセンターの整備の方向性：学校図書館のあり方

- 文部科学省では「学校図書館に関する指針」（2004年）にて、学校図書館のあるべき機能として、①読書センター、②学習センター、③情報センターを定義している。
- 教員アンケートを踏まえ、学校図書館については、多様な学習環境に活用できるラーニングセンターとして整備することを目指す。



■読書センター

児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場

■学習センター

児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする場

■情報センター

児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする場

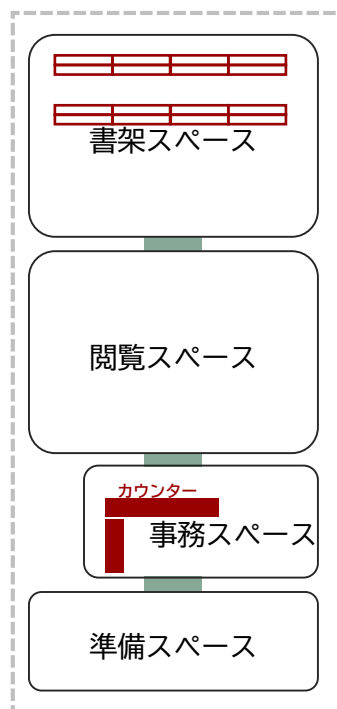
自由意見

- ・ 本を読む環境として、リラックスできる空間があるとよいと考える。低学年の児童が手に取れる書架の高さや蔵書スペースが確保できていないことから、環境を改善できるとよい。（小学校、副校長）
- ・ 様々な学習形態に対応できるよう、様々なスペースが欲しい。（小学校、教諭（特別支援学級））
- ・ 新たな学びには学校図書館が不可欠であり、使いやすいレイアウトや配置場所の工夫が必要である。学校図書館の中に学習者用端末と図書資料を併用して調べたり、プレゼンテーションができるスペースを整備する。（小学校、校長）

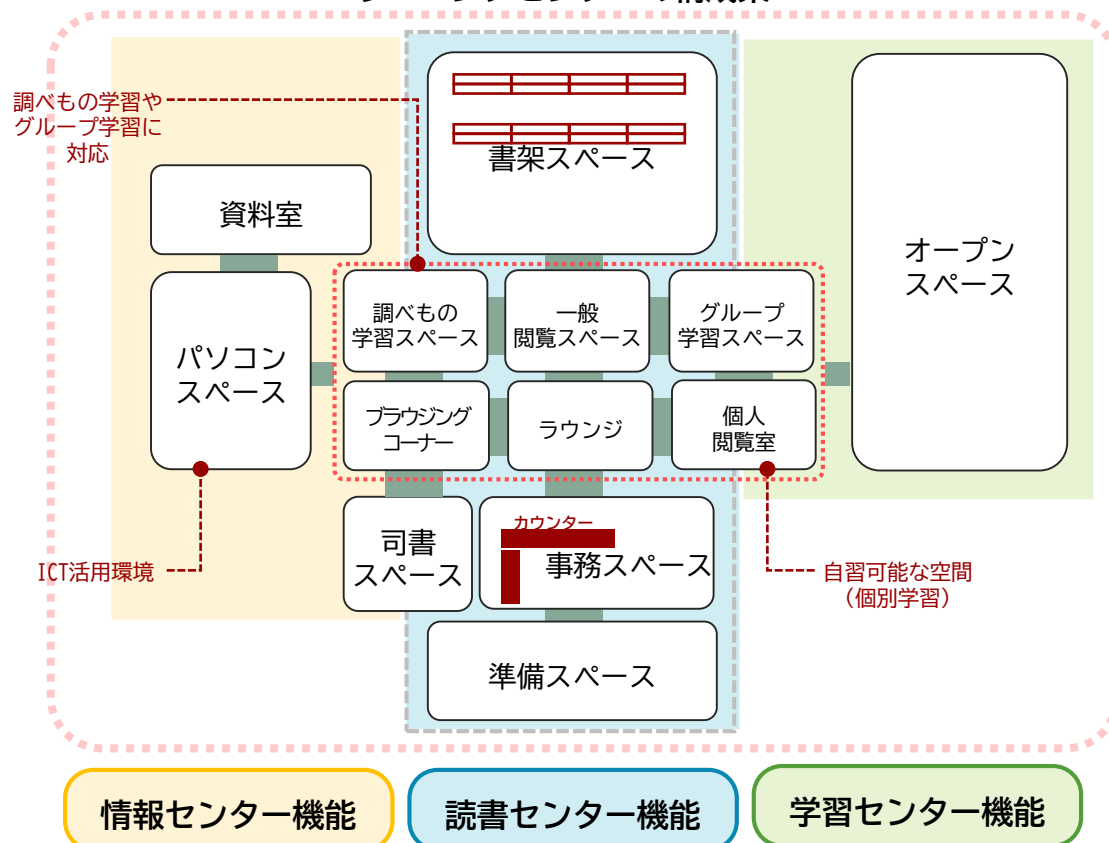
ラーニングセンターの整備の方向性：ラーニングセンターの機能構成

- 従来の書架スペースと閲覧スペースから構成される図書室に対し、資料やタブレット端末を組み合わせ、個人やグループなど様々な単位で学習ができるスペースを配置する。
- さらに学習センター機能としてオープンスペースを配置し、授業で使うことができるようにする。
- 情報センター機能の拡充として、パソコンスペースを配置し、タブレット端末ではできない作業や調べものができるようにする。

従来の図書室の構成

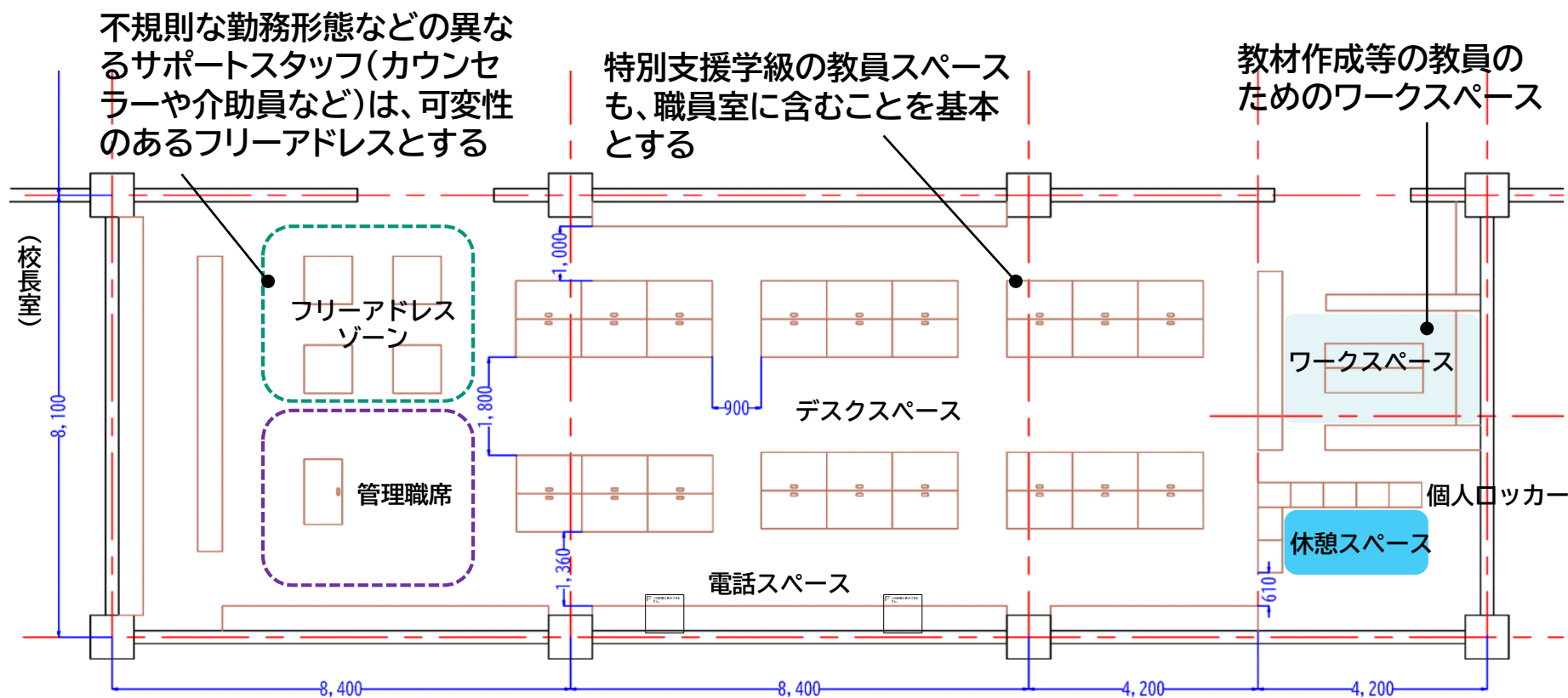


ラーニングセンターの構成案



管理諸室のありかた：職員室の空間構成

- 職員個人のゆとりあるデスクスペースを確保する（特別支援学級の教員デスクスペースも職員室に配置）
- 教員が教材を作成するワークスペースやリフレッシュのための休憩スペース、在職する職員の職種や働き方などに対応するフリーアドレスゾーンなど、多目的な利用が可能なスペースを確保する。



【条件設定】

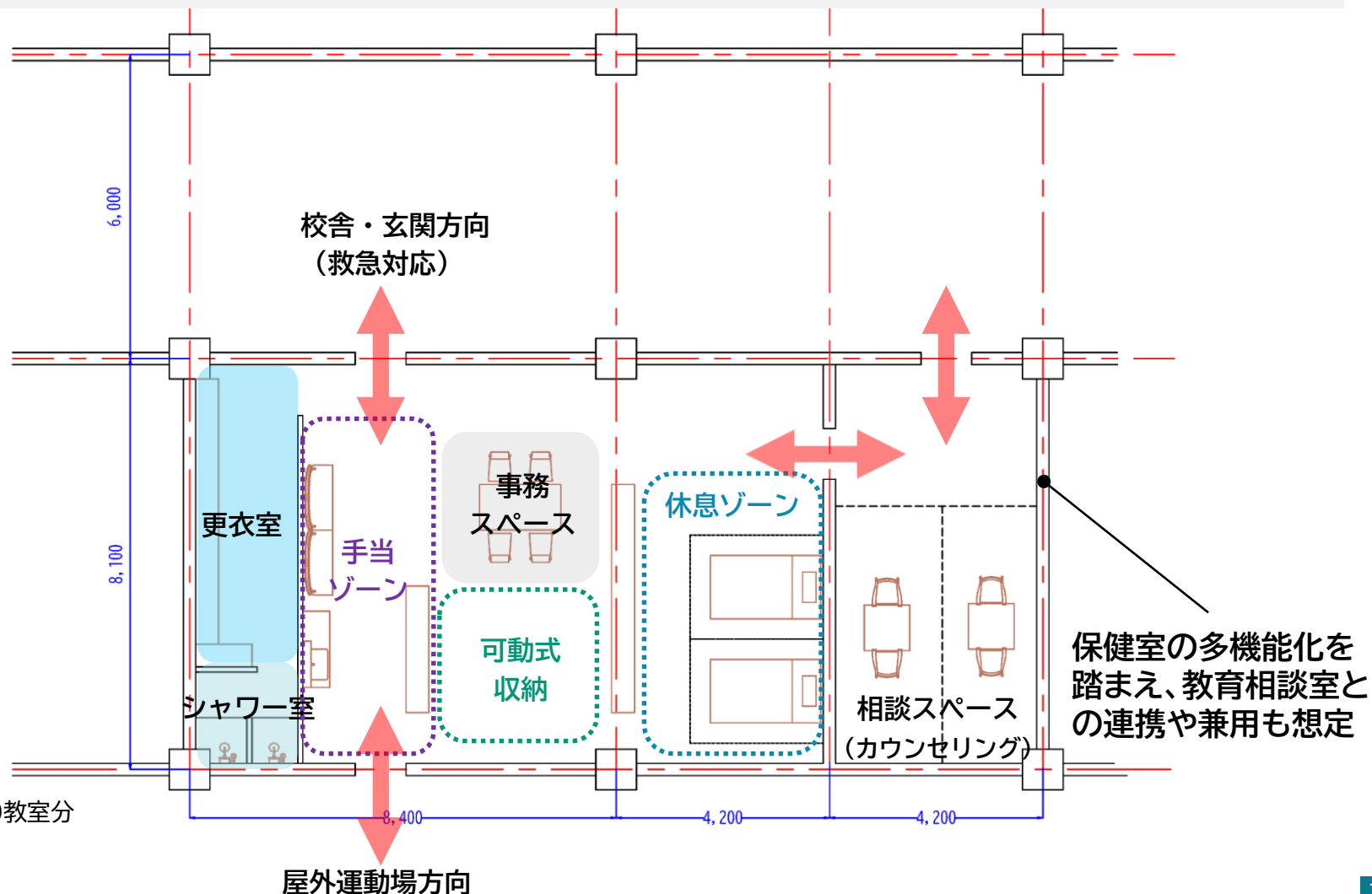
(※1) 通常学級で1学年あたり2～3学級の規模校を想定(普通教室3.0学級分、職員デスクは36人分)

(※2) 普通教室1コマ: 8.4m×8.1m=68㎡

(※3) 事務所の基準面積は、一人あたり5～15㎡で算出(【目安】36人×5㎡=180㎡) ※180㎡/68㎡[1学級]÷2.6学級相当

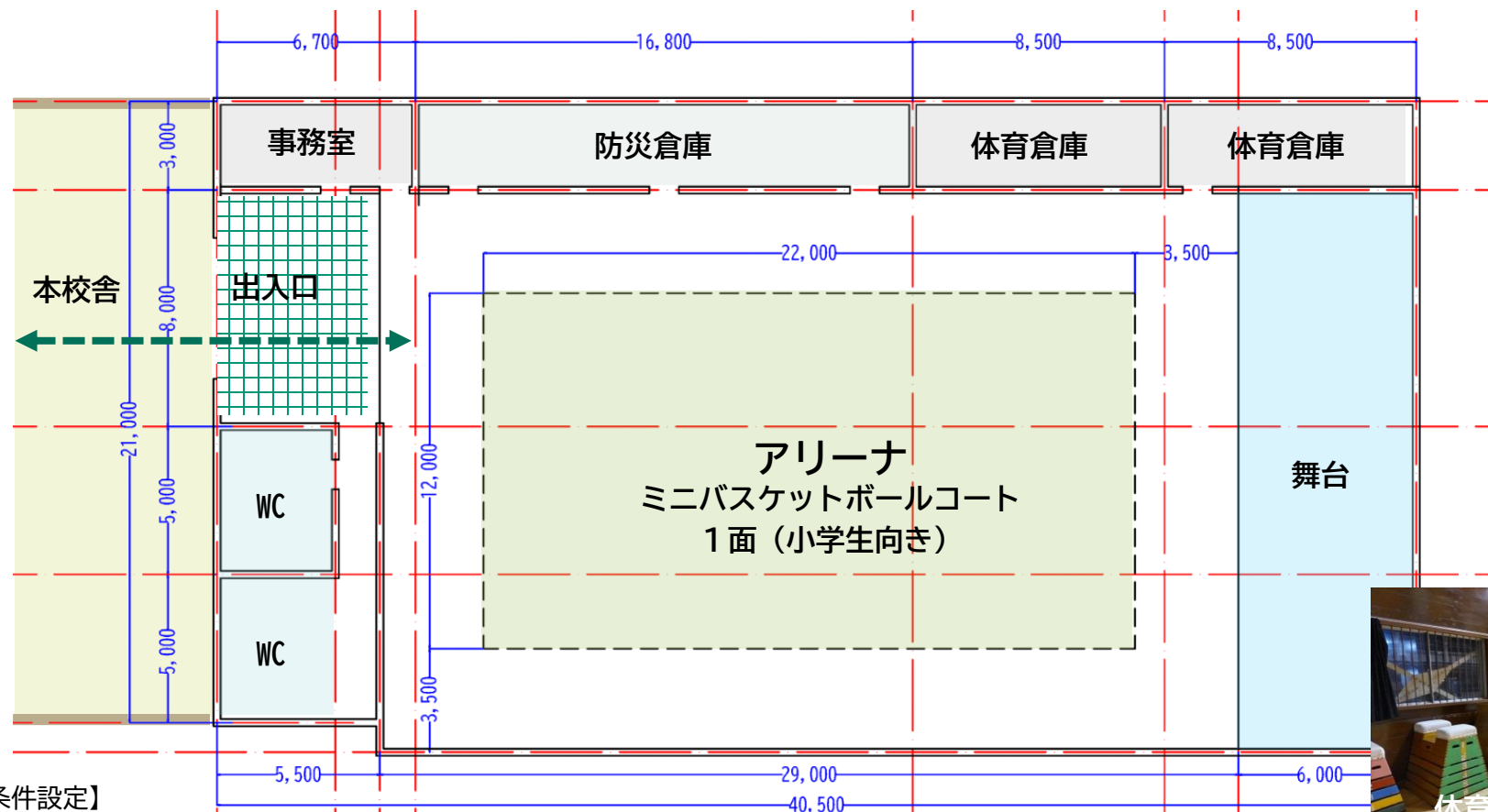
管理諸室のありかた：保健室の空間構成

- コロナ禍での対応を踏まえ、「手当て」と「休息」は室内で可能な限りゾーニングが必要。
- 相談室は保健室内に専用スペースとして確保、教育相談室と兼用も想定する。
- 救急対応として、運動場や校舎の玄関・昇降口などから近く、出入りが迅速にできるよう配置を検討。



管理諸室のありかた：体育館の空間構成

- アリーナ空間はミニバスケットボールコート1面を十分に確保できる広さとする。
- 学校校舎と一体的な整備を基本として、段差なく接続して配置する。
- 舞台はアリーナの短辺に面する位置に配置をし、現状と同程度の高さで奥行の寸法を確保する。
- 収納は日常の体育用具が収まるスペースを確保、災害時を想定して備蓄倉庫も設置する。
- フレキシブルな用途を想定して入口付近に事務室を配置。



1) 学校整備の方向性

②中学校整備の方向性（普通教室廻り）

中学校における今後の施設整備の方向性

1) 新たな学習空間の創出

- ・自習スペース@廊下の拡張
- ・コミュニケーションスペース@職員室廻り

2) 生活環境の改善

- ・交流スペース@廊下の拡張【再掲】

3) 不登校対策への空間支援

- ・別室登校スペースの確保

4) 多機能な学びへの対応

- ・特別教室のフレキシブルな配置
- ・多機能スペースの設置（既存校舎における学習空間の現代化）

など



【出典：稲城市立学校/行政視察】



【出典：加賀市ホームページ/総合教育支援センター】

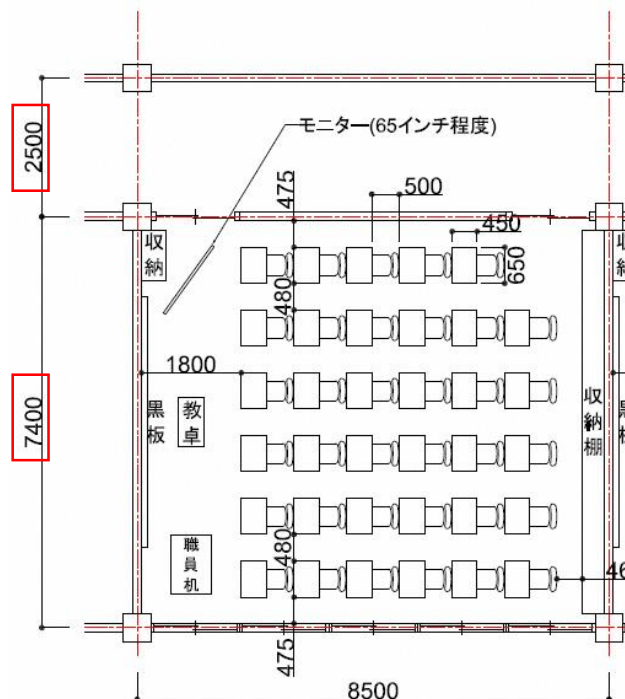


【出典：横浜高校ホームページ/施設紹介映像】

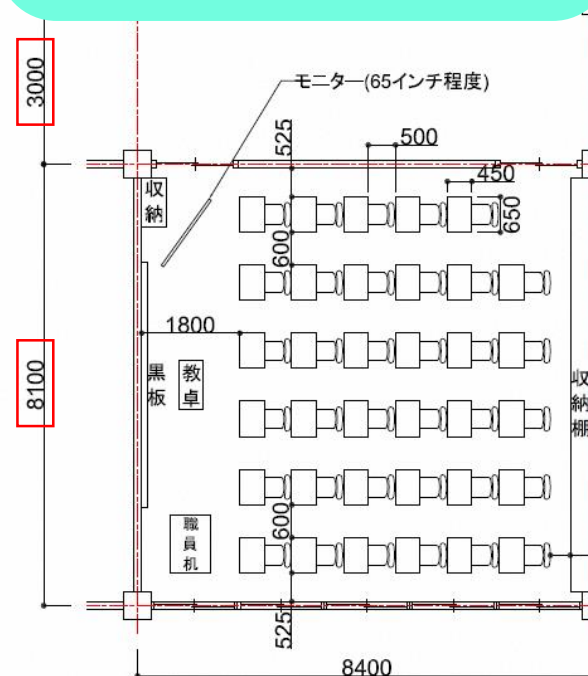
通常学級の空間のあり方（案）：空間構成

- 現在の市内の教室・廊下は下左図のとおりで、教室は $7.5\text{m} \times 8.5\text{m}$ （約 63m^2 ）、廊下は幅 2.5m である。
- 新しく学校を整備する場合は下右図のように、教室を $8.1\text{m} \times 8.4\text{m}$ （約 68m^2 ）と広くするとともに、廊下を幅 3.0m まで広げ収納スペースを確保する。（●検討の視点として $8.4 \times 8.4 = \text{約}70\text{m}^2$ も視野に入れる）
- 滞留・交流・自習空間を新たに設け、生徒の生活環境の向上を図る。

廊下の幅を 3m に広げ収納スペースを確保するとともに、滞留・交流・自習空間を設ける。



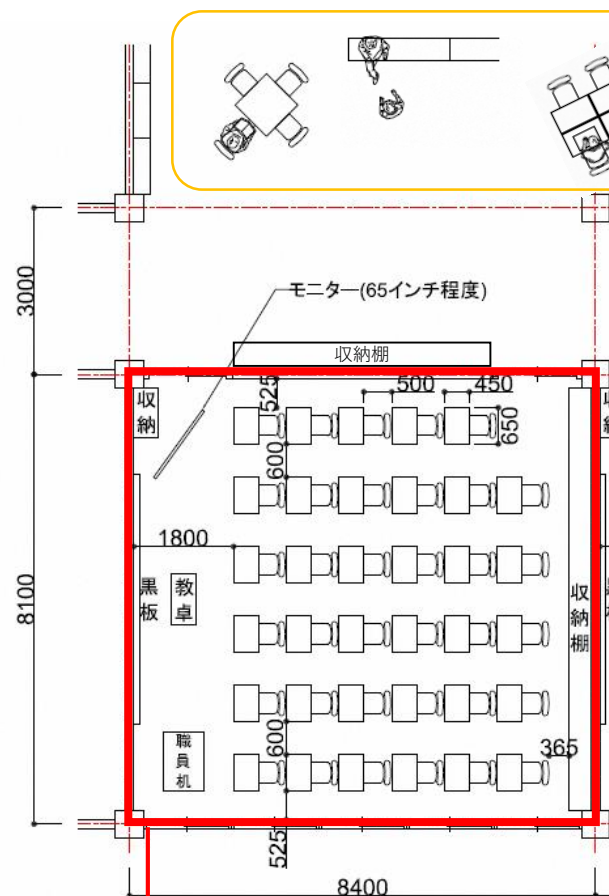
滞留・交流・自習空間の創出
(ベンチ、読書コーナー、自習スペース等)



教室の奥行はほぼ変更せず、幅を広げることで机と机の間にゆとりを持たせ、机の配列を変更しやすくする。

通常学級の空間のあり方（案）：空間構成

- 幅を広くした教室では、一斉授業はもとより、4人1組でのグループワークも可能となる。
- 滞留、交流、自習空間には、生徒の生活環境が向上に資する場を設ける。生徒の多様な生活スタイルに適応するように、教室前面の廊下を拡張する空間以外も含め、多様な空間を校内に散在させる。



35人を定員とし、多様な学習形態が可能となる広さを確保した教室（8.1m×8.4m）

滞留・交流・
自習空間の
空間イメージ



イメージ2 自習スペース



イメージ1 読書コーナー



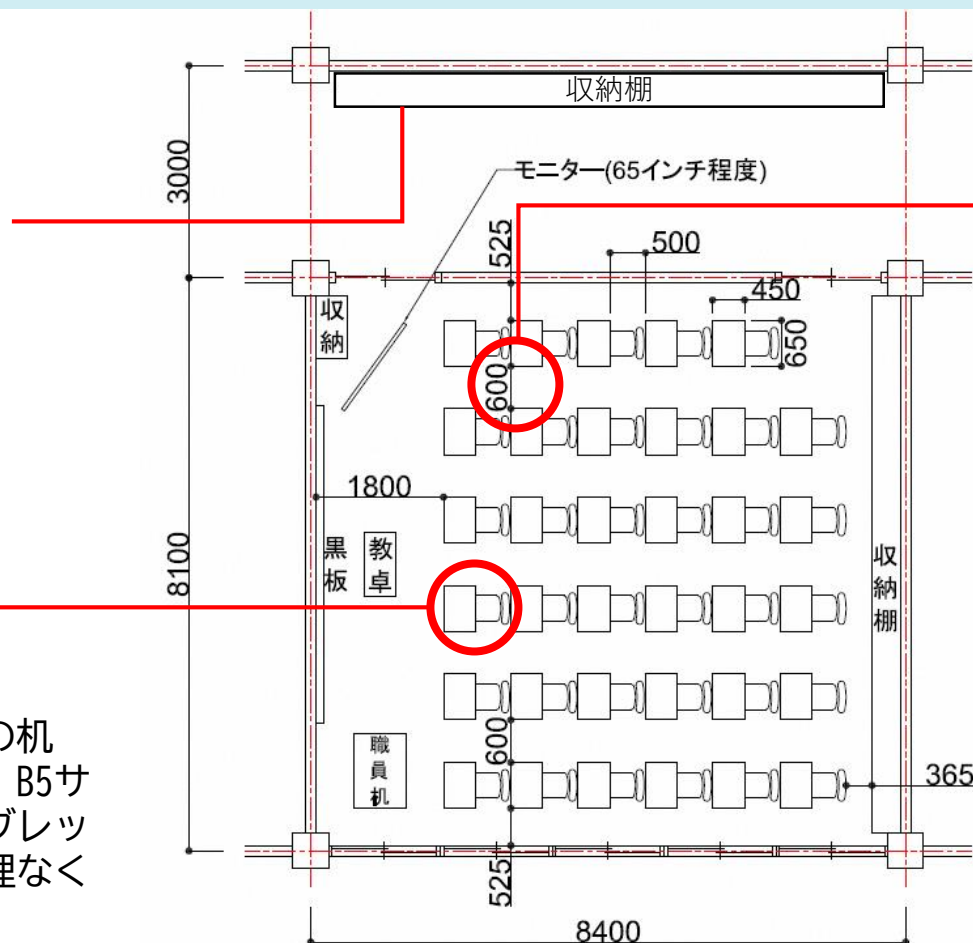
イメージ3 ベンチ

通常学級の空間のあり方（案）：空間構成

- 授業時に机上で用いる教科書、ノート、タブレット端末が無理なく置くことのできる机（幅65cm×奥行45cm）を基準としている。
- 机と机の間は60cm確保することができる。生徒や教員が通ることも可能である。仮に車いすを使用する生徒がいた場合も教室の幅に余裕があるため教室内での移動に必要な幅（80cm）を確保することが可能である。

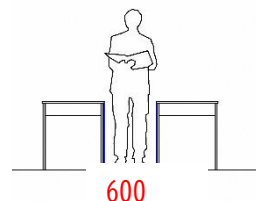
教室内で不足する
収納は廊下側に配
置する。
収納スペースが
あっても通行に支
障ない廊下幅3.0m
を確保する。

新JIS規格
幅65cm×奥行45cmの机
A4サイズの教科書、B5サ
イズのノート、タブレ
ット端末、筆箱を無理なく
置くことができる。



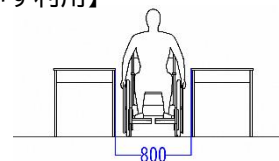
机と机の間は60cm確保
できる。

【身長170cm・大人】



※車いす利用者の通路は
最低80cmの幅が必要

【車いす利用】

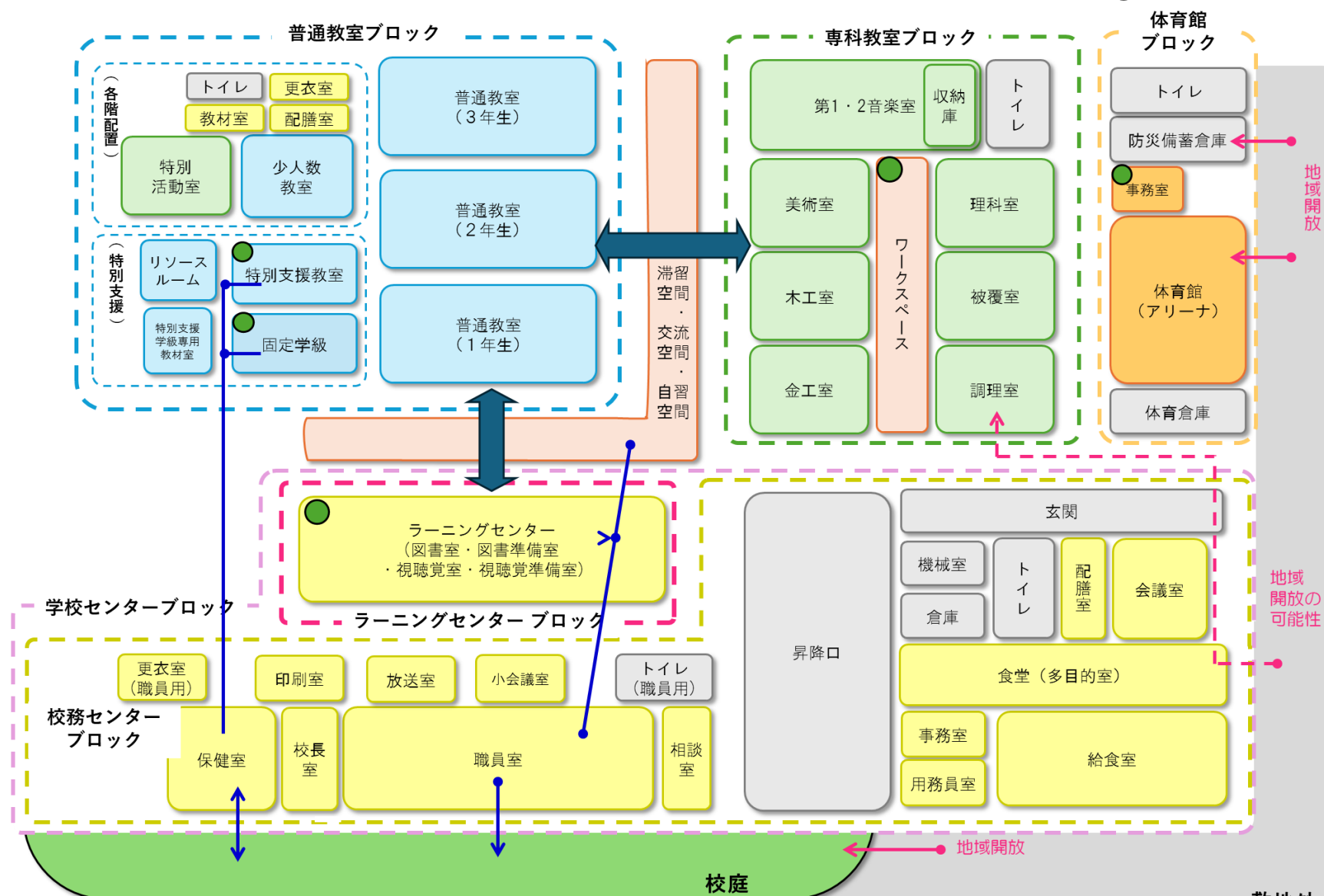


1) ②中学校整備の方向性（普通教室廻り）

資料 1-20

中学校諸室関係ダイヤグラム（市内標準）

- 【凡例】
- : 機能の主な連携（中学校）
 - : 機能の主な連携（地域開放）
 - : クールダウンスペース



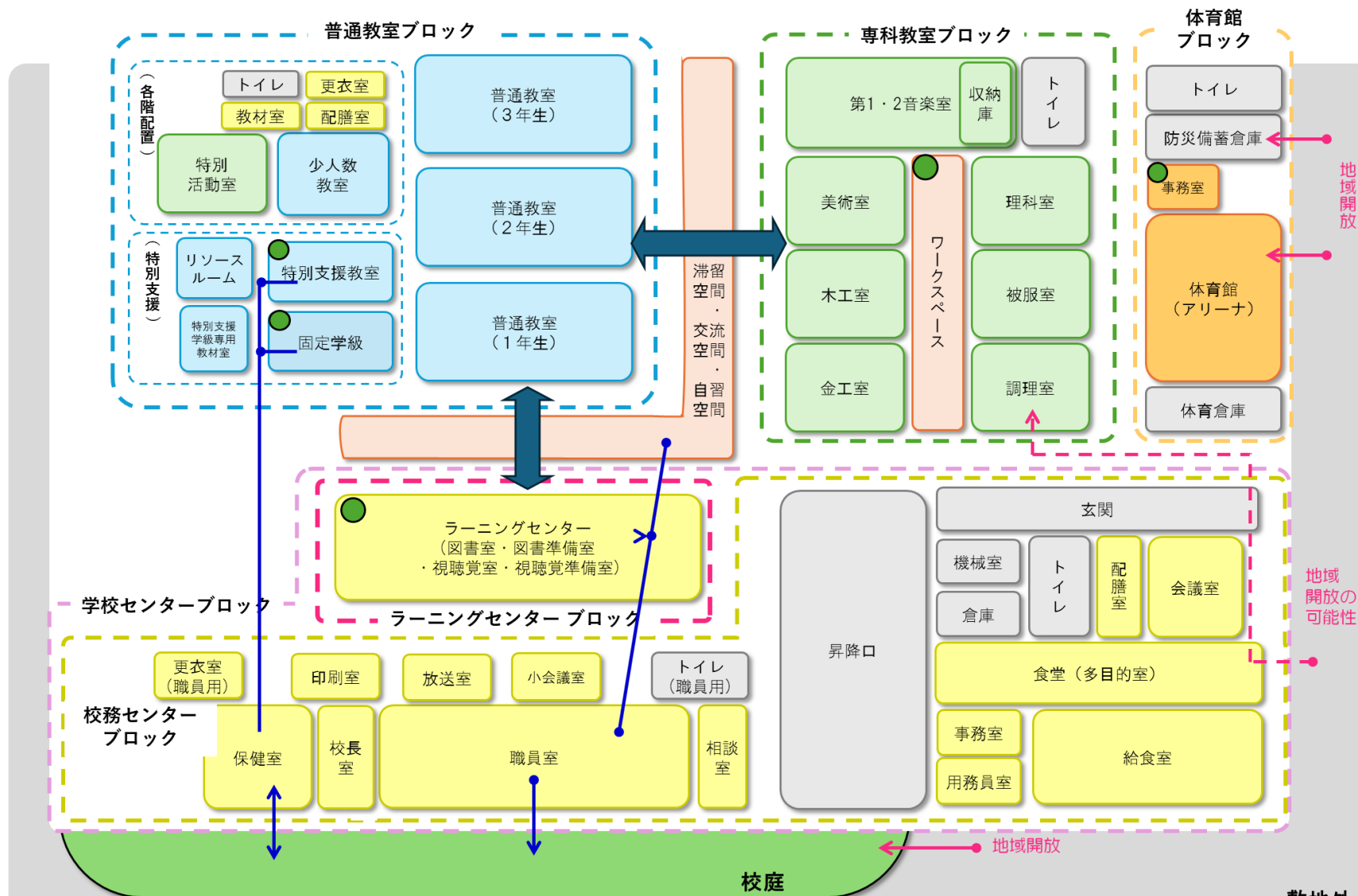
1) ①小学校整備の方向性（特別支援学級/特別支援教室）

資料 1-21

小学校諸室関係ダイアグラム（市内標準）

【凡例】

- : 機能の主な連携（小学校）
- : 機能の主な連携（保健室）
- : 機能の主な連携（地域開放）
- : DEN、クールダウンスペース

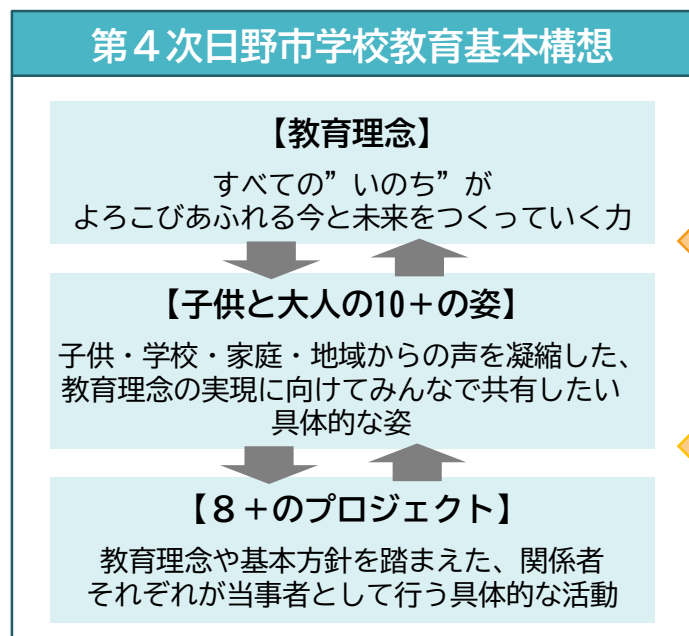


2) 第4次日野市学校教育基本構想を具現化する空間

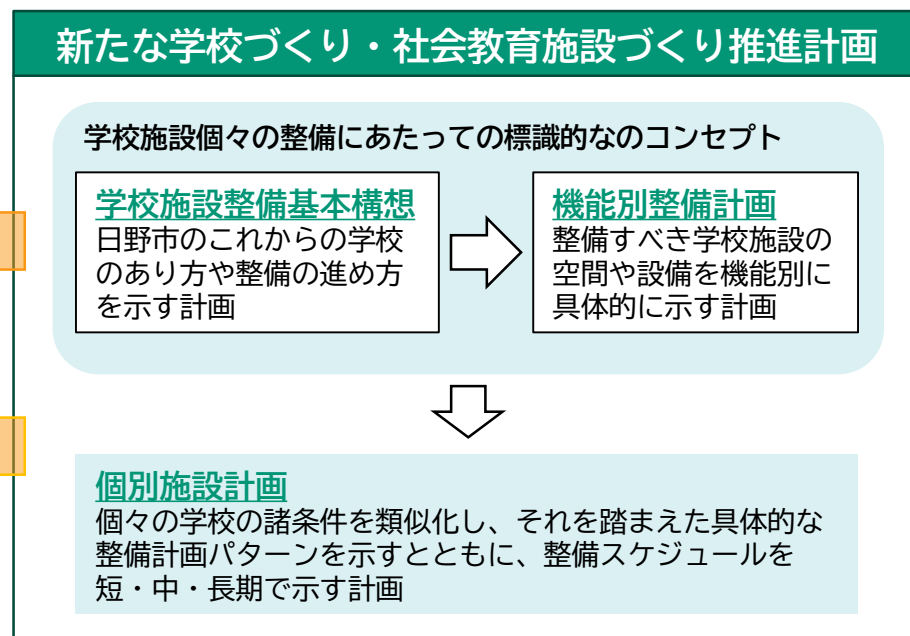
学校教育基本構想と推進計画の「相関関係」

- 上位計画に第4次日野市学校教育基本構想が位置づけられており、本推進計画では基本構想の具現化が求められている。
- 基本構想で掲げられている3つの基本方針や具体的な活動方針を示す8+のプロジェクトについて、本推進計画の学校施設のあるべき姿により具現化していきたい。

上位計画



推進計画



⇒推進計画は、第4次日野市学校教育基本構想に掲げられた教育理念に基づき、子供と大人の10+の姿や、8+のプロジェクトなどを確実に捉え、児童生徒の学習パフォーマンスが最大限発揮できるよう、ハードウェアの観点から積極的に下支えするとともに、学習環境のみならず生活環境などの最適化を図ることを目的として策定する

学校教育基本構想の実現に向けた「一体的な取り組み」

「子供と大人の10+の姿」「8+のプロジェクト」「推進計画」

※事項は、それぞれの項目から一部抜粋



5年後の
学校の姿

子供と大人の10+の姿【第4次日野市学校教育基本構想】

インクルージョン

自分と他者の多様な個性を認め合い、みんなが安心して表現し、失敗を恐れず挑戦する姿

対話・協働

自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越え協働する姿

学びの羅針盤・創造

変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動し、やり抜く姿

探究的で深い学び

自分に合った多様な学びと学び方の選択や、探究的で深い学びを支える姿

ほか

実現実行
に向けた
取り組み

8+のプロジェクト【第4次日野市学校教育基本構想】

子どもたちがつくる学校

子供たちが当事者として参画し、学校における営みをつくる活動を支える

地域共創

地域を舞台として、ホンモノとの関わりの中で遊び、体験し学ぶことにつながる

学びの変革

一人一人が多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする

安心できる学校

自分と他者の多様な個性を前提に、子供たち全員の居場所と活躍の場を支える、学校が主体の取組

ほか

最適な
学習生活
空間

2つの柱と10の論点【新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画】

新しい学習形態に対応した学習環境の実現

協働学習や個別最適な学習が実現できる教室及び周辺諸室を空間的に計画

大小様々な規模の「集い」に対応した環境の整備

学習だけでなく学校行事や休み時間の児童・生徒等の居場所を空間的に計画

学校と地域をつなぐ、現実的かつ効果的な

複合化・共用化の推進

学びにとって意義があり、学校運営に支障のない複合化・共用化を検討

ほか

新たな学校づくり・社会教育
施設づくり推進計画

これからの時代の学校に必要な機能諸室

これからの学校教育や児童・生徒の暮らしに必要な機能・諸室を整理し、標準リストを作成

プロジェクトの実施と学習空間の事例①

- 第4次日野市学校教育基本構想の策定を踏まえ、各校がプロジェクトシートを作成(ホームページ公開中)
- 同基本構想の土台となっている第3次日野市学校教育基本構想の理念を継承し、各校が引き続き一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方を実行している。

事例1

●日野第四小学校
「マイプランスクール」

月に1回、体験を重視した自立解決の取り組みを実施

グループ学習
の様子

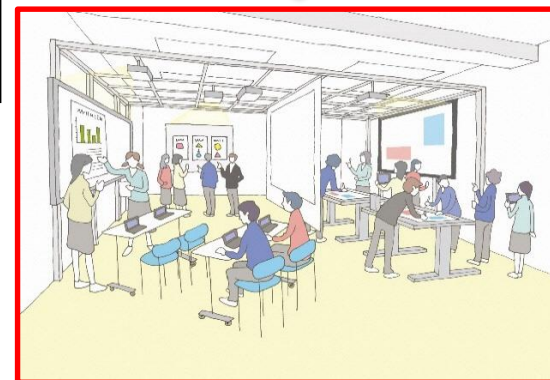
児童が自分たちで決める・選ぶ・進める活動

対話と学びのアウトプットの間（＝アウトプットデー）を設定

保護者前に説明の様子

保護者・地域社会へ学びの成果を発信。自分の学びを振り返り、より深めていく

横断的な学び、多目的な学びに対応できるように、創造的な空間に転換していく姿



プロジェクトの実施と学習空間の事例②

- 第4次日野市学校教育基本構想の策定を踏まえ、各校がプロジェクトシートを作成(ホームページ公開中)
- 同基本構想の土台となっている第3次日野市学校教育基本構想の理念を継承し、各校が引き続き一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方を実行している。

事例2

●平山小学校
「一人一人を大切に
した学び合い」

子どもたちが学習の
手引きを基に、自分
のペースで進めて行
く学習形態

児童間で
相談する様子

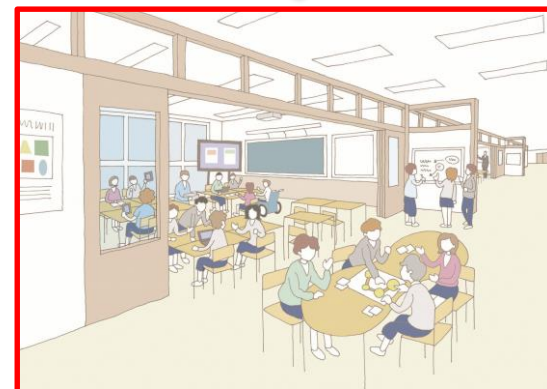
1人で取り組みたい
子、友達と相談しな
がら進めたい子。
子どもは自ら学び方
を選択

課題を調べ終えた児
童は次の課題に取り
組み、つまづきのあ
る児童は学習活動を
やり直すこともでき
る

教諭が
子どもの学びを
サポートする
様子

教師は児童一人ひと
りの学びの様子を見
立てなら、個に適し
た支援を行う

教室空間と隣接する
多目的スペースとの
連続性・一体性を確
保し多様な学習活動
へ柔軟に対応してい
く姿



他自治体の事例①（町田市新たな学校づくり推進計画）

- 町田市では、学校施設の老朽化や子どもたちによりよい教育環境の提供を契機として、学校施設の今後の整備方針を策定し、計画の実行に移行している。



小学校の整備イメージ



オープンスペースイメージ



中学校の整備イメージ



ラーニングセンターイメージ

他自治体の事例②（加賀市学校教育ビジョン）

- 加賀市学校教育ビジョンでは、子どもの「今」と「未来」も幸せに well-being を実現する学びの改革として、4つのプロジェクトを掲げている。

PROJECT
03

未来は自分で創る
#探究 #STEAM #プログラミング
#デジタルシチズンシップ

多様な人々と意見を交わし、企業、地域、大学など様々なバックグラウンドを持つ大人たちと一緒に学び、実社会・ホンモノに触れ、探究する。問いを立て、課題解決をする学びを進めます。

**小中一貫型
加賀STEAM教育プログラムの実施**

加賀市の強みであるプログラミングを生かして、小中9年間一貫型のSTEAM教育プログラムに刷新します。

1 課題発見

2 議論・探究

3 実践・試行錯誤

4 課題解決

橋立中学校の STEAM 学習のまとめです。
プレゼンテーションの様子はこちら

STEAM Education

STEAM教育とは

5つの分野の頭文字をとった造語です。単に理数やテクノロジーの学びだけでなく、分野の枠にとらわれず、創造性や発想力を組み合わせ、課題解決に挑んでいく探究型の学習です。AI やテクノロジーの進展を見据えた新しい教育として、注目されています。

PROJECT
01

学びを変える
#ICT #個別最適な学び #協働的な学び #空間デザイン #遠隔協働 #インクルーシブ

教師による一方向の一斉授業スタイルは、異なる一人ひとりに合う学びを届けることには限界があります。一人一台のパソコンをフル活用して、個々のスピードに合わせて、自分のペースで自分から学ぶ。そして沢山のひとと対話して、助け合って共に学ぶ。教室の空間デザインも工夫し、好奇心と夢中であふれる、もっと自由にクリエイティブな教室へ。「そろえる」教育から一人ひとりを「伸ばす」教育へと変えていきます。

今までは…
「みんな一緒に 同じことを 同じ方法で」

これからは…
「自分のペースで自分で学ぶ」
「学び合って、助け合って、共に学ぶ」

PROJECT
02

誰一人取り残さない
#不登校 #サードプレイス #教育支援センター #発達支援

不登校の子どもは年々増加し、10人に1人以上の小中学生が「学校に行けない・行きたくない」という状況です。誰一人取り残さず、学びが広がる不登校支援の新たな仕組みを作ります。また、増加している発達支援が必要な子どもにとって、よりよい教育環境・支援につなげるため、新たに大学や専門機関との連携を始めます。

**教育総合支援センター
移転・リニューアル**

教育総合支援センターを旧三木小学校に移転し、地域の人々と一緒に学校になじめない子どもたちが安心して過ごせる場所を作ります。また、不登校支援の拠点として機能強化し、全面リニューアルします。

**学校内サポート
ルームの設置**

「教室に行くのがしんどいな」そう思ったとき、教室以外で過ごせる場所、学べる場所を学校内に設置し、早期の支援につなげます。

PROJECT
04

地域と一緒に
#コミュニティスクール #部活動地域移行
#学校の連絡デジタル化 #広報・発信

加賀市の強みである地域の力を生かして、地域と一緒に子どもを育てる環境づくりを進めます。

コミュニティスクールへ

学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に学校や子どもを支えていく仕組みであるコミュニティスクールに全校移行します。

中学校部活動の地域移行

2023～2025 年度を「改革推進期間」と位置づけ、早期に地域移行の実現を目指すという国の方針のもと、加賀市でも土日の部活動から段階的に地域移行を進め、地域と一緒に子どもの活動の場を作っていきます。

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
準備年度	計画年度	土日の部活を段階的に地域移行	

学校・保護者間の連絡手段のデジタル化

学校からの情報発信やアンケートの実施、家庭からの欠席連絡などを迅速・確実に行うため、アプリを導入し、双方の利便性を高めます。

保護者・市民向けの教育講演会・広報

新しい教育への理解を進めるため、講演会の実施や SNS 等を通じた情報発信、教育改革の進捗の広報も進めます。

学校施設整備のコンセプト（案）の検討について

- 新たな学校施設の整備で実現したいこと・重視したいこと（理念）を整備コンセプトとして整理する。
- 整備コンセプトは、4次構想策定の際に集まった意見や検討委員会における「2つの柱と10の論点」による意見交換に加え、ワークショップでの児童・生徒、市民や関係者などの意見を踏まえて検討する。

■日野市第4次学校教育基本構想：5年後の学校の姿に向けた具体的な取組

（14,000人の声を基に各ワークショップで検討）

【出典：第4次日野市学校教育基本構想特設サイト】

教職員

【授業づくり、学級づくり】

- ・子供同士で教え合い・学び合い
- ・興味関心・主体性・思考力の向上
- ・協働的な学び
- ・個別最適な学び
- ・ICT機器を使った効果的な学習
- ・居場所がある
- ・楽しい中で学べる雰囲気づくり

【特別支援教育】

- ・インクルーシブ・個を大切にする
- ・子供が必要とする支援

【特別活動】

- ・子供が主体となって行う活動
- ・異学年交流、学年混合で学び合える
- ・人とのつながりを深める

【放課後】

- ・子供の理解力にあった学習教室
- ・居場所の充実

【地域連携】

- ・地域と協力した体験的な活動
- ・保護者や地域が協力者となる
- ・地域の方々と交流する場の設定

PTA

【情報発信】

- ・学校の見える化

【学校への支援】

- ・課外活動の支援
- ・学校の負担を軽くする
- ・保護者と学校、先生、地域との対話
- ・学校に行く機会を増やす
- ・地域と子供たちとつなげる
- ・多様な人材を集める
- ・信頼関係を築く

【子供への働きかけ】

- ・子供のやりたいことをたくさん経験できるような機会を設ける
- ・子供の声を聞く

【教職員の働き方、職員室】

- ・授業を気軽に見合う環境
- ・教員の学びの機会（企業・地域や教員同士など）
- ・時間や心の余地の確保
- ・教員同士が仲良く協力しあえる
- ・先生同士のよりよい関係づくり

学校評議員

【子供への働きかけ】

- ・顔が分かる関係づくり
- ・話を聞く、寄り添う、見守る
- ・一緒に楽しむ、一緒に喜ぶ、一緒に学び、知り、考え、行動する
- ・地域の子供を育てる

【地域の活動】

- ・子供が主人公になる場
- ・地域の大人と子供たち、保護者との交流する場

【仕組みづくり】

- ・学校と地域が関わるための仕組みづくり
- ・子供と大人の関わる場（空き家）づくり

【学校への支援】

- ・学校や先生方を応援する
- ・学校イベント等への協力
- ・積極的に学校に出入りして参観する
- ・教職員との意識の共有化
- ・地域が学校の学習や安全に関わる

検討委員会

【学校・PTA・地域等との連携】

- ・学校、行政、地域と保護者との対話
- ・保護者・地域が参画
- ・学校を、教育活動内容を知る
- ・積極的な地域活動への参加

【設備・施設】

- ・新しい学び方に合った学校施設
- ・地域に必要な機能をもった公共施設としての学校施設

【学校の取組】

- ・子供と教職員の協働で取り組む学校づくり
- ・子供たちが、自分たちの学校を、自分たちの力でつくり上げていく時間と場の設定
- ・子供たちが、より良い学校づくりを進めていく教育活動の実施
- ・広く校外の取組に触れる
- ・本校で学びたいという子供を増やす
- ・教員が子供たちと向き合える時間の確保

学校施設整備のコンセプト（案）の検討について

■日野市第4次学校教育基本構想：当事者が取り組むプロジェクト

（自分たちで目標を定め、チームで取り組む具体的な活動）

【出典：第4次日野市学校教育基本構想特設サイト】

小 学 校

安心できる学校づくり
(日野第一小学校)

みんなでつくる、**みんな**のための学校
(日野第三小学校)

学びでか・つ・や・く
(日野第五小学校)

子供たちが**つくる**学校
(潤徳小学校)

子供たちが**つくる**学校
(日野第八小学校)

探究する児童を育てる
(日野第七小学校)

安心できる学校
(旭が丘小学校)

地域がステージ・**学びの**変革
(仲田小学校)

みどり
(七生緑小学校)

学びの変革
(豊田小学校)

夢中になれる **夢中**にさせる
(日野第四小学校)

児童も教職員も学び続ける
(日野第六小学校)

からだ健やか
(平山小学校)

地域と共に歩み、安心できる学校づくり
(滝合小学校)

安心がいっぱい
(南平小学校)

安心・安全な学校
(東光寺小学校)

子供たちが**つくる**学校
(夢が丘小学校)

中 学 校

学びの変革(人間性向上)
(日野第一中学校)

Beyond ○○○(**学びの**変革、**安心**できる学校、**自身の道**を拓く)
(日野第二中学校)

学びの変革
(七生中学校)

社会や**地域社会**への貢献
(日野第三中学校)

一人一人が**多様な**学び方を身に付け、**探究的**に深く学ぶようにする
活動の実践
(日野第四中学校)

学校**リニューアル**
(三沢中学校)

“絆”と**“かがやき”**
(大坂上中学校)

生徒がつくる学校
(平山中学校)

学校施設整備のコンセプト（案）の検討について

■検討委員会：各委員からのご意見

（整備コンセプトに関連する主な意見を抽出）

【出典：検討委員会「意見まとめ」（第2回～第5回）】

学校教育/教室空間

- 弾力的に多様な学習活動に対応
- 多様なグループ活動の実現
- ラーニングセンターが、子供たちの居場所となり、色々な学習活動を誘発する可能性
- 特別に支援が必要な子どもが、本人の希望に応じた学級で学びが実現

子供たちの生活環境

- 子供たちの居場所づくりが大事
- 清潔感の確保が大事
- 子供と一緒に相談をしながら、一人一人の問題に対応できる場の確保

教職員の職場環境

- 職員室は教職員や様々な専門職の方が協働しやすいような空間
- 風通しの良い教職員の関係を作り、子供たちを守る
- 学年を越えてコミュニケーションできる空間づくり
- くつろぎ、落ち着いた環境でミーティングや会話ができるスペース

施設整備・複合化/共有化

- 改築する学校だけでなく、既存の学校のバリアフリー化も重要
- 来校者（臨時講師や地域の方）がくつろげる場の確保
- 学校と地域が学校施設の空間でシェアし、児童・生徒と利用者が自然と交流
- 学校がより多くの方に使ってもらえる施設であるべき
- 学校単体ではなく、地域に配置されている公共施設の様々な機能を含めて、地域全体で機能配置の検討を行うべき

地域連携・交流

- 地域の方々や子どもたち、教職員が自然と交流できる
- なるべく地域社会の人たちが学校に親しみを感じて、気軽に学校の中へ入っていただけるような環境
- 学校が地域社会に親しまれ馴染むこと、街の中心に学校をつくる
- 組織的に動けるような仕組みを学校・地域全体で考える
- 学校教員の負担を増やすことのないよう、地域の力を活用する
- 地域の方々も様々なノウハウを持っており、学校の臨時講師として活用
- 放課後の子供の居場所や見守りについて、学校を使い、地域の方々の力を借りながら居場所をつくれる

学校施設整備のコンセプト（案）の検討について

■日野第一小学校：子どもたちとの対話による学校づくり 学習発表会
（テーマ：未来の学校をイメージして、グループで模型を作りました）

【出典：学習発表会】

学校全体に対する未来のイメージ

- ・開放感あふれるような校舎
- ・斬新な、今までにないような教室



- ・楽しく、快適に過ごせる場所
- ・生徒が楽しく行きたいと思えるような場所



- ・地域から目立つような校舎
- ・全体的に広く明るくしたい



- ・明るくて楽しそうな校舎



- ・自然に触れながら楽しく学べる学校



- ・清潔感のある学校



個別諸室に対する未来のイメージ

【特別教室】

- ・授業が受けやすい環境
- ・色んな学年が使うため、過ごしやすい空間

【音楽室】

- ・音楽ホールのような楽しい空間

【図書室】

- ・明るい雰囲気のある空間

【体育館】

- ・児童みんなが楽しく使用できる場所
- ・地域の方々が利用できてもおもしろい

【屋上・トイレ】

- ・トイレや屋上を楽しくてきれいな学校
- ・屋上は自由に遊ぶ、全体的に落ち着ける場所

学校施設整備のコンセプト（案）の検討について

- 令和5年度から6年度に実施したワークショップ、総合的な学習の時間で得られた主な意見を順次集約していく。
- 児童生徒を対象としてワークショップなどでは、学習空間以上に生活環境の快適性、環境改善を望む声が多く、交流やコミュニケーションに関するワードが多く発信されていた。

■これまでのワークショップでの主な意見（キーワード）

対象・テーマ	主な意見（キーワード）
日野第一小学校 児童 ～これからの学校の姿～	・楽しくて明るい ・自由な雰囲気・自由に遊べる ・話し合いがしやすい ・過ごしやすく使いやすい ・清潔感、開放感 ・地域のシンボル ・勉強と遊びの両立 ・笑顔で過ごす場所、思い出をつくる場所
日野第三中学校 生徒 ～学校の中の理想の居場所～	・学年性別関係なく誰でも ・自由に遊べる、イベントができる ・一人でゆっくり過ごせる ・友人とゆっくり話す ・開放感のあるスペース ・多様な飲食の場（カフェ、屋外、大人数）
未就学児 保護者 ～小学校・中学校に求めること～	・明るい教室 ・個々に合わせた多様な学び ・地域との関わり ・学校と地域をつなぐコーディネーター ・子供・教職員の息抜き場

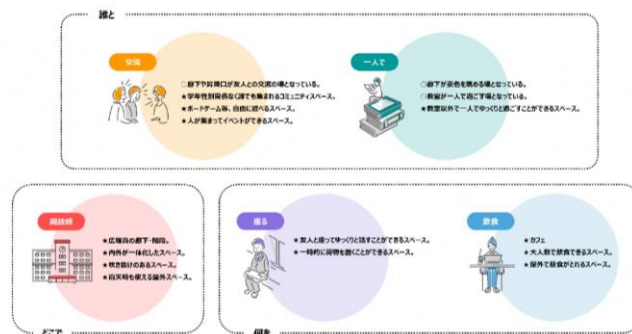
「総合的な学習の時間/学習発表会」のまとめ ～日野第一小学校の取り組み～

日野第一小学校の6年生が、「つなげよう、私たちの日野第一」「未来の学校」をテーマに、これからの学校の姿を次のとおり創造しました。
 ・校舎が開放感あふれるようにリニューアル、子どもたちが地域のシンボルと位置付ける自然や緑を感じられるように工夫
 ・校舎内では普通教室と特別教室を分け、エコを意識した設計、新築室を楽しい空間として創出、児童の学びの利便性が快適に過ごせるよう配慮
 ・図書室は明るく児童が、自由に本を楽しむように工夫。全体的に楽しさや面白さを、児童の学びや遊びそして生活空間を大切にする日野第一



ワークショップまとめ ～学校の中の理想の居場所～

学校の中における理想の居場所について出した意見は5つのキーワードに整理すると以下の通りとなる。



整備コンセプトの検討について

- これまでのワークショップにおける意見（キーワード）を踏まえて、「教育環境」「施設整備」「組織環境」「地域環境」の観点から、事務局案を以下に示す。

※引き続き、今後ワークショップなどで集約する児童・生徒、市民や関係者の声を反映する。

（教育環境に関する基本理念）

- 案① 児童・生徒の快適性や居心地に配慮し、多様な学びを実現する可変性のある学校づくり
- 案② 学習や教育の変化に対応し、子どもたちが主体的・対話的な学びができる学校づくり

（施設整備に関する基本理念）

- 案① 児童・生徒が自由に活動でき、明るく、安全で使いやすく、誰にでもやさしい学校づくり
- 案② 児童・生徒の多様なニーズに応え、子どもたち全員の居場所と活躍の場となる学校づくり

（組織環境に関する基本理念）

- 案① 教職員の働きやすさを向上させ、地域とともに、未来の担い手を育てる学校づくり

（地域環境に関する基本理念）

- 案① 学校と地域をつなぐ協働・防災機能と地域コミュニティを創出し、地域のつながりを育てる環境にやさしい学校づくり

【参考】10の論点の体系整理

- 10の論点を4つのカテゴリーに体系整理

新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画

【学校施設のあるべき姿（案）】

（※10の論点より）

教育環境

新しい学習形態に対応した学習環境の実現

協働学習や個別最適な学習が実現できる教室及び周辺諸室を空間的に計画

学校教育を深化・充実するための特別教室の整備

学びを支える学校図書館や特別教室の環境や設備について空間的に計画

児童・生徒の特性を踏まえた多様な環境

児童・生徒の特性を踏まえた多様な学び場・居場所を空間的に計画

施設整備

これからの時代の学校に必要な機能・諸室の標準化

これからの学校教育や児童・生徒に必要な機能・諸室の標準リストを作成

大小様々な規模の「集い」に対応した環境の整備

学習だけでなく学校行事や休み時間の児童・生徒等の居場所を空間的に計画

複合化・共有化を見込んだバリアフリー化の対応

ユニバーサルデザインの検討、既存施設のバリアフリー対応方策の検討

快適性向上と環境負荷軽減を両立した設備の導入

児童・生徒や教職員にとって快適な施設であり環境にやさしい設備を計画

組織環境

教職員の働きやすさの向上と地域連携を推進する管理機能の整備

教職員や地域の協力者の活動を支えるワークプレイスを空間的に計画

地域環境

学校と地域をつなぐ、現実的かつ効果的な複合化・共用化の推進

学びにとって意義があり、学校運営に支障のない複合化・共用化を検討

避難所としての学校施設の整備

児童・生徒や地域にとって安心・安全な避難所としての体育館を計画

3) 新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画

- ・ 学校施設整備基本構想（素案）イメージ

別紙「資料2」参照

学校施設整備基本構想（素案）イメージ【検討委員会資料1より】

● 第1回検討委員会資料より

計画を策定する目的

未来思考の視点をもって、新しい時代に求められる教育・学習空間づくりへの転換

- これまでの学校施設の老朽化や劣化度合いの観点のみによる校舎の更新だけではなく、新しい時代の教育内容の変化に対応した多様な学習形態に適した空間デザインの検討が必要。
- 河川や丘陵地、歴史文化、商業地など自然豊かな地形や多様な地域性などを踏まえ、まちの発展や地域の実情に応じた行政ニーズへ対応するには、地域から期待される公共施設としての機能や役割の検討が一体不可分。

計画の全体構成

3つの構成要素より計画を策定

検討委員会意見
意見まとめ等

議事1) 学校施設
整備の方向性

学校施設個々の整備にあたっての標準的なコンセプト

学校施設整備基本構想

日野市のこれからの学校のあり方や整備の進め方を示す計画

基本構想を具現化する空間や設備を具体化

機能別整備計画

整備すべき学校施設の空間や設備を機能別に具体的に示す計画

第7回

2つの方針に照らし、施設の諸条件に沿った各校における整備計画のパターン整理

個別施設計画

個々の学校の諸条件を類型化し、それを踏まえた具体的な整備計画パターンを示すとともに、整備スケジュールを短・中・長期で示す計画

第8回

● × 小学校の整備

基本構想・基本計画

個々の学校を整備する上で、地域の要望を踏まえ必要な諸室や面積を定義する計画

【改善】これまで学校施設個別に「基本構想・基本計画」を立案してきたが、左記に示す計画の策定により、一貫性のある学校施設・学習空間の整備が可能。

● × 学校整備工事開始

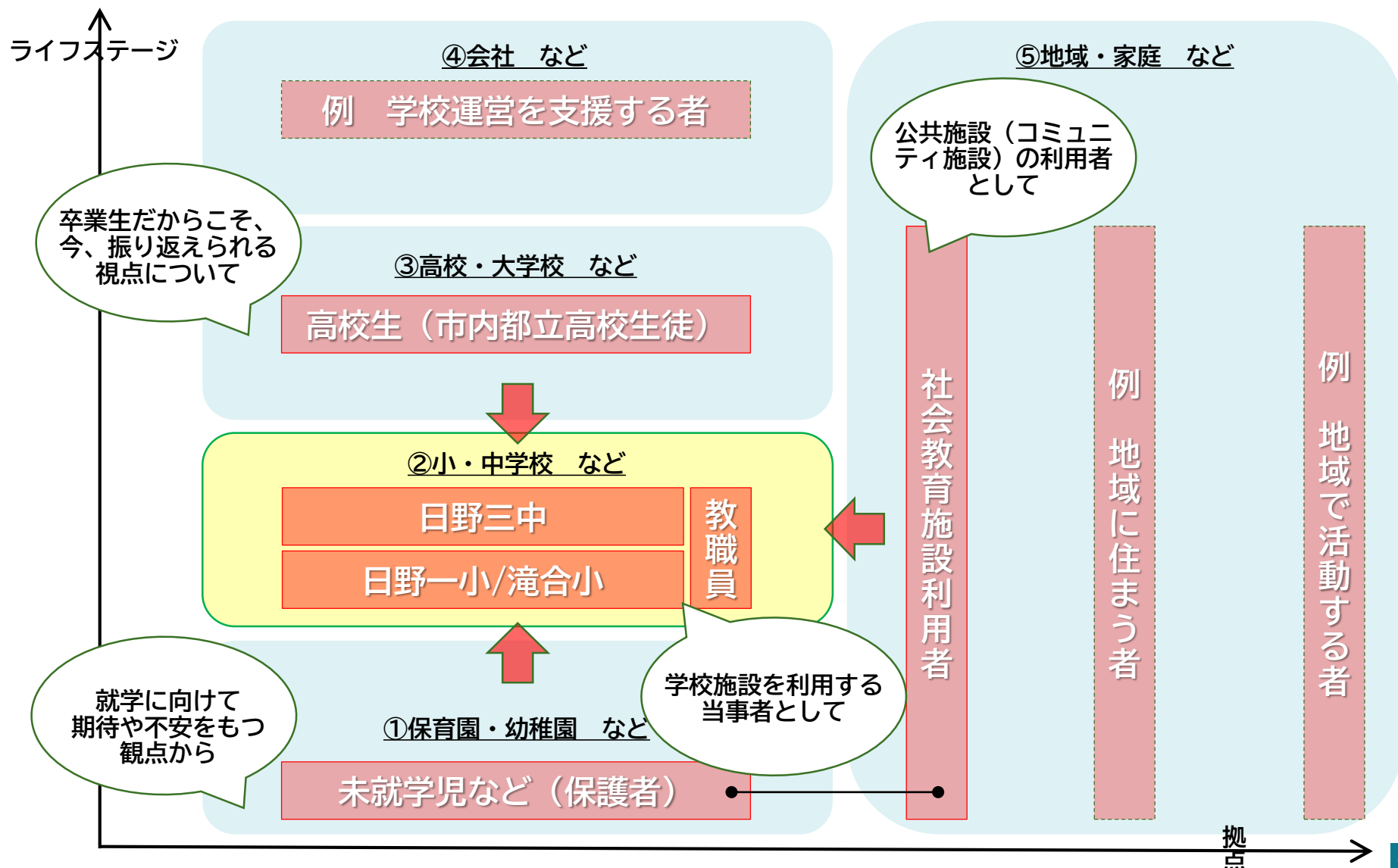
第6回

4) みんなで考える、学校施設のあり方について

- ・ワークショップ実施報告（令和6年度の取り組み）

ワークショップ実施報告（令和6年度の取り組み）

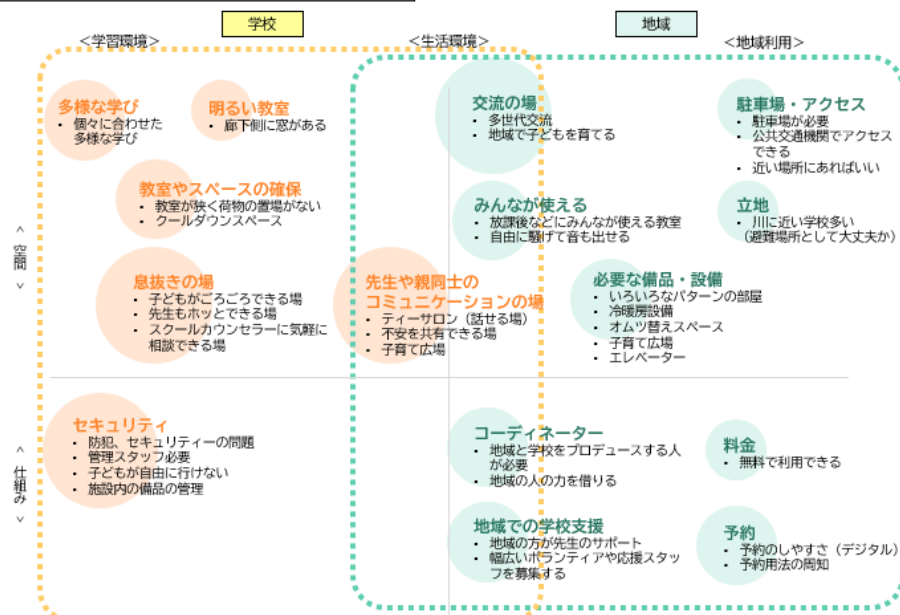
● ワークショップ対象グループについて



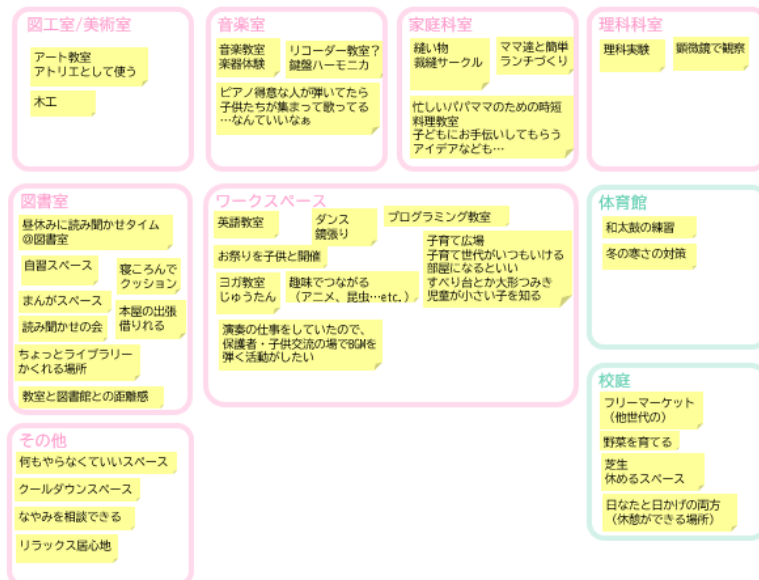
その1 / 社会教育施設利用者 / 6月4日@中央公民館

- 社会教育施設利用者であり、また未就学児/学齢期の保護者でもあるため、「地域」「保護者」の2つ視点で、これからの学校施設のあり方について意見交換を行った。
- 学習環境の観点においては、教室や収納スペースの十分な空間の広さを確保すること、また、子供が日常的に過ごす場所として「ほっとできる」「カウンセラーに気軽に相談できる」など、息抜き・相談環境の充実を求めている。
- 他方、地域利用の観点においては、公共施設（コミュニティ機能）として、立地やアクセス（駐車場）、おむつ替えスペースやエレベータなど備品・設備類の設置に多く意見が出た。
- 地域開放として、学校施設、特に特別教室を利用するニーズに関する意見交換においても、図工室はじめ諸室の機能を活かした上で、「●●●のような使い方ができる」など地域コミュニティ施設利用者の視点をもって前向きな意見が出された。

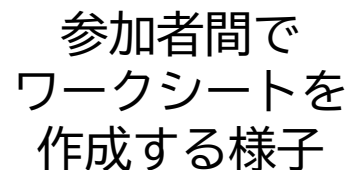
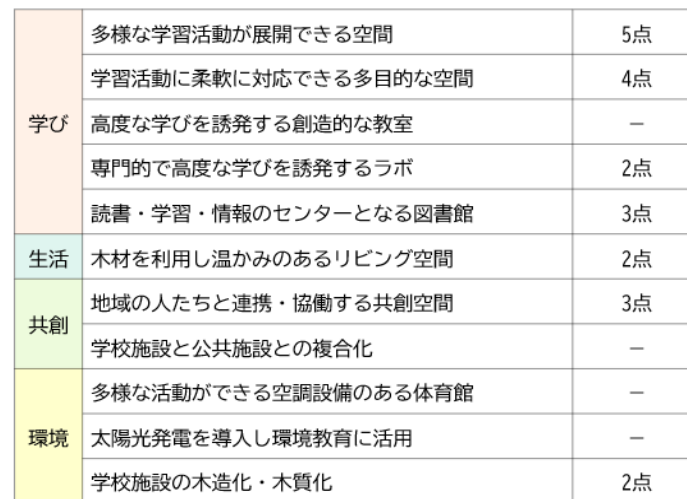
未就学児保護者WSの共有化に関する意見のまとめ



④学校を地域開放した場合の利用ニーズは？

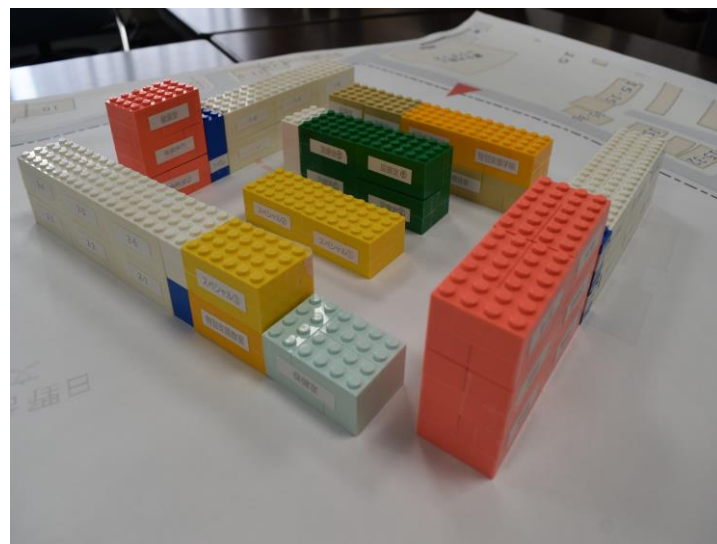
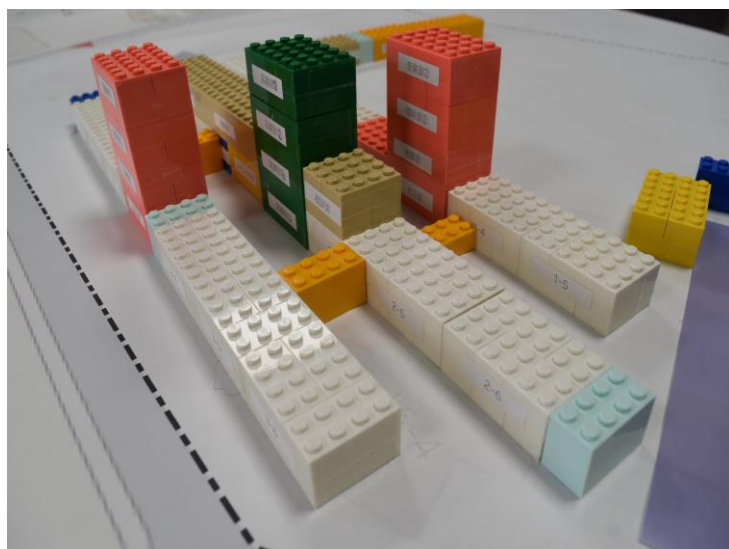


参加者間で
意見交換する様子



その2 / 都立高等学校生徒 / 6月13日、20日、7月11日@都立日野台高校

- 日野市内の学校にとらわれず、「卒業生だからこそ、今、振り返えられる視点」をもって、各自治体の中学校まで視野を広げ、「これからの学校施設のあり方」を検討テーマとして意見交換を行った。
- 6月中旬より全3回、2チーム体制で実施。第1回では個々の学校施設における課題分析を、第2回では理想とする学校施設の空間をレゴブロックで組み立て、最終回ではその内容をプレゼンテーションで表現
- 生徒間のコミュニティやトイレなど生活環境の改善について、また小学校のワークショップとは異なり、部活動に関わる環境改善にかかる意見が強く出ていた。
- 学習環境においても、収納スペースの拡張や放課後の自習室の設置、職員室の一部が開放的な空間となり、教職員との心理的距離も含め、コミュニケーションがとりやすい空間機能を求めている。



【ロールプレイ設定】生徒を実在する企業（当業務委託先）の建築デザイナーとして、仮想となる日野台中学校の建替工事を受注するため、コンペティションに参加。

社内プロジェクトチームの編成により、実在の企業社員指示のもと、課題分析から空間模型を組み立て、ポスターセッションで発注元の市教育委員会、仮想の中学校管理職を前に受注競争（コンペ）を行うもの。

ワークショップの様子

参加者間で
ワークシートを作成する様子

レゴブロックで
校舎模型を作成する様子

チームリーダーとともに
校舎の最適化を検討する様子

チーム間で発表
(プレゼン) をする様子

第1日：実施報告（実態把握と分析）

高校生WS（6/13） 第1回 概要版

テーマ：「現状と課題の分析」
ワーク①当時の状況を把握する
ワーク②中学校の課題を分析する

①当時の状況を把握する

		よくいた場所	苦手な場所
学習環境	教室	- クラスの人々と一緒に話したり遊んだりしていた - 冷暖房設備が充実（エアコン、扇風機、ストーブなど）	うるさかった、狭かった
	特別教室	- 広く色々な作品があったから（美術室） - 部活の思い出の場所だった（音楽室）	—
専科環境	図書室	静かで過ごしやすい	—
	職員室	—	堅苦しい雰囲気だった
管理棟その他	階段踊り場	友達と話せる場所だった	—
	廊下	廊下が長くて昔ながらの雰囲気があった	—
	トイレ	鏡があるし、他クラスの子と交流できる場所だった	- 狭い、たむろする人がいて使いづらい - 男女の入口が近く中が丸見え - 清潔感があり鏡等の設備を充実してほしい
校庭	体育館	部活が中学で一番好きな時間だった	離れているため移動に時間がかかる
	プール	屋根がついてた	- 汚くて、屋外のため寒くて暑い - 更衣室が汚かった
	校庭	—	- 日陰がない - 照明がないため冬になると暗かった

- よくいた場所として、教室や部活など学校生活の中心となっている場所や友達、一人の空間（居場所）などが挙げられた
- 苦手な場所として、教室や職員室の雰囲気やトイレのプライバシー、屋外施設の配置や設備などが挙げられた

②中学校の課題を分析する（評価する点）

空間	快適な学習環境	景観・環境	- 開放的で外が見える - 自然光が入る
		学習スペース	大きな机があり、広々と勉強ができた
		設備	各教室にモニター、ロッカーが設置
仕組み	交流空間	図書室	- 廊下のベンチにみんな集まった - ふれあいスペースにソファがあり落ち着けた
		図書室	畳スペースがあってよかった
		学習サポート	話しやすい翻訳の先生がいた
仕組み	課外活動	技術支援	外部からコーチが来てくださっていたので専門的なことを教えてもらった
		活動実績	部活が積極的に活動できていた→ハンドボール部の全国大会出場など

- 評価点として、快適な学習環境や交流スペース、課外活動の支援などが挙げられた

②中学校の課題を分析する（改善してほしい点）

空間	学習環境が不十分	学習スペース	放課後の自習スペースがほしい
		サポート環境	職員室が閉まっていた、質問しづらい
		設備	ロッカーが欲しい
空間	設備が不十分	ICTの利用	- ICTの利用ルールを明確に - 各教室にモニターを設置
		交流空間の確保	- フリースペースが欲しい - みんなで食事ができる場所が欲しい
		友達と話せた一人になれる居場所	1人の場所をつくってほしい。 - 机をしきったり、個室など
空間	一人の居場所	図書室	- 狭くて本が少ない - 人が多く収容できない

- 改善点として、学習スペースやサポート、設備の改善、交流空間や一人の居場所の確保などが挙げられた

第2日：実施報告（空間検討）

高校生WS（6/20） 第2回 概要版

テーマ：「新たな時代の中学校プランを考えよう！」

ワーク レゴでモデルプランを建築する

Aチーム

【全体配置】

- 普通教室等をフラットに直線的に配置し、交流や移動を容易に
- 特別教室とラーニングセンターはシンボルとして中央に配置



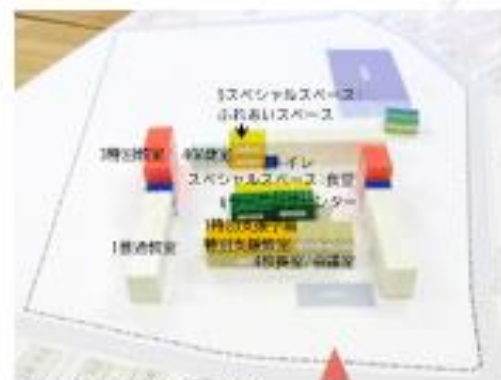
【各諸室の機能と配置】

1	普通教室と特別支援学級・特別支援教室	- 全学年が平等に登らず授業を受けられるように、全て1階に配置する。 - 特別支援学級も普通教室と同じように1階でとする。交流をもつ、もたないを選択できるようにする。
2	トイレ・更衣室	- 早々に広がる学校なのでトイレの数は増やす。 - トイレは男女の部屋を連させる。
3	特別教室	- 特別教室は我が校のシンボルの3棟として展開する。 - 図書棟は生徒みんなが集まる！！ - 専門分野に応じて各層に分ける。
4	職員室など	2階に配置し校庭が見えるようにする。 - 教室への行き来がしやすい屋を設ける。 - どの教室からも行きやすい配置とする。
5	スペシャルスペース	【特別支援学級の生徒も一緒に交流できる場所】 ①交流スペース：1階にあることで皆が交流できる。 ②保健室：体育館等でけがをしてもすぐに対処できる。
6	ラーニングセンター	- 校舎の中心に配置し、利用しやすく。 - 図書室は中に階段があり、なるべく移動が少なく、すべての機能を最大限使えるようにする。

Bチーム

【全体配置】

- 教室どうしの行き来のしやすさ（コの字）
- 体育館の後方に校庭を配置し、日陰にする
- 避難しやすくするため2階建て



【各諸室の機能と配置】

1	普通教室と特別支援学級・特別支援教室	- 交流しやすいコの字型に配置する。 - 災害時に避難しやすいよう下の階に配置する。
2	トイレ・更衣室	- トイレはどここの部屋からも行くことができるように、できるだけ各棟1つずつ配置する。 - 更衣室はプール、校庭、体育館の近くに配置する。
3	特別教室	- 全ての教室から行きやすい配置とする。 - 音楽室など音の出る部屋は防音とする。
4	職員室など	- 比較的全学年の生徒が行きやすい位置に配置する。 - 来訪者の対応がしやすいよう昇降口の近くに配置する。
5	スペシャルスペース	【食堂】 - みんなが行きやすい。 - ソファや観葉植物などがあるスペース。 - その他、更衣室にシャワーを設置する。
6	ラーニングセンター	- みんなが行きやすいように、コの字型の校舎の中心に配置する。 - 勉強の後、寄れるようにスペシャルスペースの近くに配置する。